

森ノ宮医療大学 創立10周年記念誌

MORINOMIYA
UNIVERSITY
of MEDICAL SCIENCES



想いのすべてを、医療の力に。



森ノ宮医療大学

感謝を心に、使命を胸に

— 医療と社会に貢献する学園へ —

平成19年に開学した森ノ宮医療大学は、ようやく10年目を迎えました。学園の歴史としては、母体となる大阪鍼灸専門学校が設立された昭和48年から数えて44年目になります。学園創設以来、多大なるご支援をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。また、大学設立にあたりましては、大阪鍼灸専門学校、そして現在の森ノ宮医療学園専門学校の卒業生の皆様が築かれた伝統の賜物と存じます。改めまして、皆様に心より感謝申し上げます。

学園の起源である大阪鍼灸専門学校創設の目的は「臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた鍼灸師の育成」「東西医学の融合と地域医療への貢献」「鍼灸医学の学問的解明と東洋医学発展への貢献」というものでした。学園創設者は、鍼灸師養成校の設立とともに、学問的解明も行う大学の設立を見据えていたと言えるでしょう。しかし、学園創設当時は鍼灸師養成校の設立さえ困難な時代であり、また、大学の設置についても多様な課題があり、まずは専門学校設立に邁進し、大学は将来の目標として学園は歩み始めました。後に柔道整復学科の設置に伴い森ノ宮医療学園専門学校と改称し、「臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する」という建学の精神のもと、臨床現場で活きる教育を実践してまいりました。「臨床的な教育」は、現在の森ノ宮医療学園の象徴です。大学設立構想は、専門学校として30年を越える歴史を刻み、成熟期を迎えた頃、満を持して始動しました。その原動力となったのは、学園創設者の想いを継承した、当時の森俊豪理事長（第4代）の強い情熱と実行力です。大阪鍼灸専門学校の創立から34年。平成19年から、私たちは、実践的な教育を行う専門学校と学問的解明を行う大学を有する学園、そして創設者がめざした姿となって、歩んでいくことになりました。

今後はより一層、専門学校、大学それぞれがその使命を果たし、これまで以上に医療に貢献する学園でありたいと考えております。10年はひとつの節目ではありますが、道はまだ半ば。倍旧の努力を重ね、実績を積み上げていく所存です。今一度初心に帰り、医療に、社会に貢献できる森ノ宮医療大学をめざしてまいります。引き続きご支援、ご指導のほどをよろしくお願い申し上げます。



学校法人 森ノ宮医療学園
理事長

清水 尚道
Naomichi Shimizu

目次

ごあいさつ・祝辞 03

森ノ宮医療大学 1期生の今 11
理学療法学科
鍼灸学科

10年の歩み 13
開学前～2007年度
2007年度～2010年度
2010年度～2012年度
2013年度～2014年度
2014年度～2016年度
2016年度
これからの森ノ宮医療大学
新聞で見る10年史
沿革

学科・大学院・専攻科の歩み 29
理学療法学科
鍼灸学科
看護学科
臨床検査学科
作業療法学科
大学院／助産学専攻科

連携の歩み 36
地域コミュニティとの連携
医療・福祉・教育機関との連携

データ・資料集 41
学舎の発展進化
広報活動
学内行事
教員一覧
大学の役職者
文部科学省 科学研究費助成事業 採択課題一覧
10年間の主な業績
10周年記念事業

校歌 55

[建学の精神] —————
臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する

[学園の精神] —————
生命（いのち）への愛と畏敬

[基本理念] —————
人によりそい幸福（しあわせ）を希う学園

[大学ミッション] —————
私たちは、幅広い知識と高度な専門技術を有し、
チーム医療の実践に求められる豊かな感性と
高い倫理観を備えた専門職医療人を育てます。

創立10周年を迎えた森ノ宮医療大学 — 皆様への感謝と更なる発展をめざして —

鍼灸学科・理学療法学科を擁する医療系大学として平成19年に誕生した本学は、今年度開学10周年を迎えました。文部科学省、大阪府、大阪市の関係各位、実習担当施設の皆様、そして学生とご家族様には多大なご支援ご指導を賜り、また本学10年の歩みを支えてきた教職員一同の努力に、この節目にあたり深甚なる感謝を申し上げます。さらには、大学新設を決意し、膨大な作業を着実にこなし開学を成し遂げられた森俊豪前理事長をはじめとする当時の森ノ宮医療学園関係者の皆様の感慨に想いを馳せ、深い尊敬の念を禁じえません。

「臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する」という建学の精神のもと、本学は決して歩みを止めることなく、教職員一丸となり常に医療系大学としての発展を目指してきました。開学5年目には保健師課程も有する看護学科、大学院保健医療学研究科(修士課程)を新設。看護分野においては、10周年目にあたる今年度から助産学専攻科も立ち上げ、質の高い看護教育体制を構築しました。さらに立ち止まることなく、今年度から臨床検査学科・作業療法学科も新設したほか、なおも平成30年度には臨床工学科(仮称)、大学院博士後期課程の設置を構想しており、まさに“医療系総合大学”として近畿圏で大きな存在感を示すようになったと自負しております。近年その重要性が叫ばれているチーム医療教育の質を高めることができるのも医療系総合大学だからこそであり、チーム医療の現場で活躍できる人材の輩出は、医療界への貢献に繋がるものと信じています。

臨床を重視する本学の特徴として、大阪府内の中核病院を中心とした多様な連携病院を確保し臨地実習の充実に特に注力いたしました。これは本学の大きな魅力の1つでもあります。大阪府立急性期・総合医療センターをはじめとして多くの質の高い医療施設や相愛大学などと包括連携協定を結ばせて頂き、教育・研究両面での相互協力、社会貢献でも連携しております。今後ともこのような絆を頼りに、幅広い教養と豊かな人間味を育むことに重点を置き、品位ある医療人を育成すべく、次の10年に向けて中身の充実を図るとともに、医療系総合大学としてのさらなる拡大・発展へと邁進する所存でございます。皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻頂ければこの上なく幸甚に存じます。



森ノ宮医療大学
学長

荻原 俊男
Toshio Ogihara



森ノ宮医療大学 副学長

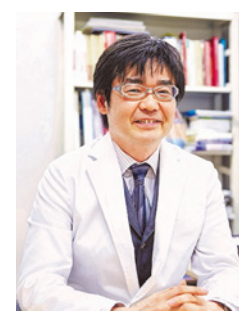
吉岡 敏治
Toshiharu Yoshioka

世の中がどのように変わっても、常に必要とされるのは、教育と医療です。医療系大学では知識の詰込教育が行われがちですが、学生時代は生涯に渡る考え方を身につけることが重要です。

医学、医療技術の発展は著しく、時にはオーダーメイドの医療まで日々新たに展開されています。チーム医療をさらに一歩進めて、新しい医療技術に取り組むには、意欲とともに協働力、コーディネート力が必要です。このコーディネート力の源泉となるのが、言い古された言葉ですがコミュニケーション力とコラボレーション力です。これらの涵養こそが、森ノ宮医療大学の特徴と言われるようにしたいと思っています。

医療系大学では、どのような実習病院を確保し、どのような病院に就職を斡旋できるかは極めて重要な課題であります。私は今春、赴任したばかりで、前任地は、当大学と相互連携協定を締結している大阪府立急性期・総合医療センターです。この3月末まで院長を務めておりましたが、本学から多数の実習生を受け入れるとともに、一期生、二期生の看護師をこの2年間で25人採用しました。急性期・総合医療センター以外の就職先病院も大阪府内では有数の基幹病院ばかりですが、このような恵まれた病院群を実習病院や就職先にできる要因は、学長をはじめとする職員の努力と、看護師がいまだ売り手市場であること、本学がアクセスの良い市内に立地していること等であると思います。

医療系総合大学を目指し、適切な実習病院の確保と、臨床第一のチーム医療を重視した教育が実践されていることをお伝えして、私の挨拶と致します。



森ノ宮医療大学
保健医療学部 学部長

青木 元邦
Motokuni Aoki

平成19年に開学した森ノ宮医療大学は、着実に歩を進めながら、ますます魅力を増した医療系大学として今年度創立10周年を迎えました。この記念すべき節目に、行政関係の皆様をはじめ、実習医療機関の皆様など多大なるご支援を頂いた方々に深く感謝申し上げます。

振り返れば、開学当初の本学は鍼灸学科・理学療法学科の2学科からなる小規模な大学でした。まさに手さぐりの日々ではありましたが、優れた医療人育成への想いを教職員一同が共有し、そして何より大学を発展させたいという気概がありました。常に挑戦と拡大を意識し、平成23年度には看護学科、そして今年度からは臨床検査学科・作業療法学科を新設。わずか10年で、5学科を擁する保健医療学部と大学院・助産学専攻科を有する“医療系総合大学”へと大きく発展しました。開学当初から在籍している私は、この劇的な変革に深い感慨を禁じ得ません。

このような流れの中、近年の医療形態の根幹である専門職連携、いわゆる「チーム医療」を本学の医療教育の柱と位置付けております。もちろん、各学科それぞれの教育プログラムも進化を続け、魅力的な学科コンセプトを確立していますが、「医療系総合大学だからこそ学べるチーム医療」は、医療人を目指す学生の心をしっかり掴み、近年の本学志望者の飛躍的な増加に繋がっています。教員・学生ともに学科の垣根を超え、実際の医療現場さながらに展開するこの教育プログラムは本学の大きな魅力といえます。

我々は学生の皆様から多くを学ばせて頂きました。そして、それこそがさらなる発展へと我々を突き動かす原動力でもあります。学生やご家族へ感謝しつつ、森ノ宮医療大学は今後も歩みを止めません。在学生、卒業生の皆様、そして教職員の皆様が誇りを持てる大学への進化はまだ序章に過ぎないのです。今後とも皆様方の御指導御鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。



森ノ宮医療大学
法人本部長
事務局長

安田 実
Minoru Yasuda

私が森ノ宮医療学園に入職して間もない平成12年頃、当時本学園が支援していた米国の西海岸にある「サンタバーバラ・カレッジ・オブ・オリエンタルメディスン(SBCOM)」を前理事長森俊豪先生に同行して訪問する機会を得ました。ここで、講義や実技実習などつぶさに見学したのですが、「実技・手技は我々の日本の鍼灸学校も、高度で専門的かも知れない」と仰る森俊豪先生の感想は心に残りました。また、初代理事長森秀太郎先生は、独自の発展を遂げた日本鍼灸の世界的な普及をも願って、SBCOMの支援に乗り出したと聞いています。一方で、日本の専門学校では、海外の学校との提携がうまく進展しないという事実も思い知りました。その意味でも、本学の母体となっている大阪鍼灸専門学校の創始者たちは、当初から大学化を念頭に学校経営を担っていたように思われます。

開学4年前、平成15年11月の理事会において、収容定員400名規模の鍼灸学科を持つ大学構想が審議されています。法律の改正により、近畿圏における都心部への大学設置の道が開けたこと、また平成15年には、大学設置基準が緩和され、大阪市内都心部に大学を新設することが可能になったことは、学園にとって大きな転換期でした。

私は鍼灸師ではありませんが、日本鍼灸の優位性を信じて疑うことは無く、さらに国際的に拡がってほしいと僭越ながら願っており、そのための一橋頭堡が、森ノ宮医療大学に他ならないと思っています。高度医療専門職の養成は、一朝一夕には実現は難しく、ようやく大学として10年の経過を辿ることができましたが、むしろ今後の第2ステージにおいて卒業生はもとより、大学の社会への様々な方面での貢献が期待されていると浅慮せざるを得ません。どうか皆さま方におかれましては、今後ともよろしく指導ご鞭撻賜りたくお願い申し上げます。



大阪市 市長

吉村 洋文
Hirofumi Yoshimura

森ノ宮医療大学が開学10周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

「生命(いのち)への愛と畏敬」という崇高な学園の精神に基づき、豊かな感性と高い倫理観を備えた専門職医療人の育成に日々力を尽くされている、理事長、学長をはじめとした皆様方のご熱意とご尽力に、深く敬意を表します。

咲洲コスモスクエア地区では、国際交流・交易機能や高度研究機能・研修機能の強化とともに、居住機能をはじめとする生活利便機能の充実により、魅力ある複合市街地の形成をめざしたまちづくりを進めています。

貴学がこの咲洲コスモスクエア地区に進出いただいたことにより、高度な専門職医療を志す数多の未来ある若者が集い学ぶことで、同地区のますますのにぎわいづくりに貢献いただいていること、住之江区との連携協定に基づき、地域保健や生涯学習、高齢者の健康づくり、子育てなどさまざまな分野で市政に協力いただいていることに厚くお礼申し上げます。

また、開学以来、患者及びその家族を尊重したチーム医療の実践を追求され、既に医療現場の第一線で活躍する多くの医療者を輩出されてこられましたこと、本年春にはさらに2つの学科を新設され、医療系総合大学としてさらなる飛躍を遂げられましたことなど、「全ての市民がすこやかで心豊かに生活できる活力あるまち・健康都市大阪」の実現を理念とする大阪市にとっても、誠に心強いかぎりです。

森ノ宮医療大学が開学10周年を機に、今後ますます発展されますよう心からお祈り申し上げまして、お祝いのことばといたします。



大阪府立急性期・
総合医療センター
総長

後藤 満一
Mitsukazu Goto

開学10周年、節目の年を迎えられたこと、誠におめでとうございます。

森ノ宮医療大学は、医療人としての高い意識と幅広く柔軟な知識、さらに医療センスの育成を目標に掲げられ、これまで多くの学生が当センターでも研修され、また、卒業後は立派な医療人として活躍されています。2016年4月より、これまでの看護学科、理学療法学科、鍼灸学科の3学科に、新しく作業療法学科、臨床検査学科、助産学専攻科を加えられ、1学部5学科、大学院・専攻科をもつ医療系総合大学として教育をおこなっておられます。今後、さらに医療の専門性が高まり、分化し、複雑化していく中で、それらを包括する多くの知識と技術が必要となります。この複雑な情報をいかに自分のものにしていくかが大きな課題になるかと思いますが、総合大学として、医療にかかわるすべての側面を横断的に可視化できる場を提供することが可能であります。また、医療において最も大切である、人の心を理解できる豊かな感性、自分の家族に対するような優しさと思いやりの気持ちをもって、全人的に患者に接することができる医療人の育成を目指しておられます。

当センターは、南大阪の最後の砦として、急性期から高度な専門医療まで、総合力を生かして良質な医療を提供すること、また、医療人の育成と府域の医療水準の向上のために日夜研鑽に努めておりますが、貴学学生の研修の場として、また、卒業生の医療実践の場として、質の高い医療、それに加わるチームの構成員としての誇りを、是非、将来にわたり共有させていただければと思っております。

最後になりましたが、貴学の今後益々の発展を祈念しております。



公益社団法人
日本鍼灸師会
会長

仲野 弥和
Hirokazu Nakano

森ノ宮医療大学10周年を迎えたこと、心よりお祝い申し上げます。大学設置以来、キャンパスの拡充、大学院の設置、各学科の増設等を続けられていること、誠に頼もしい限りです。伝統医学に基づいた鍼灸学を実践する大学の根幹を大切に、教育を更に進めていただきたいと思います。高齢社会における健康寿命の増進を考えた時、特筆すべき医療業種であります。とりわけ養生法はまさに大切なエッセンスです。養生学のような特異性のある講座の開設、市民公開講座など、貴学で開催されている催しのように、普及啓発の発信地としてさらに推し進めていただきたいと思います。

今年、学校養成カリキュラム改善検討会でかなりの時間数の増大をお願いしました。また、臨床家との多くの接点により卒業時の技術向上に役立てていただきたいと思います。我々臨床家集団も大学への実技の指導等に協力体制を準備しています。国民にとってわかりやすい医療を実践し、受療率を上げて今の高度医療に合わせて、本来の免疫力を引き出す医療の実践者として、国民の役に立つ伝統医療のパラダイムを作りあげていきましょう。多くの卒業生の皆さんに、私どもは情報を得やすい環境づくりをしてまいります。貴学が常日頃実践されている積極的な啓発活動をさらにお進めください。私どもは卒後研修を皆様と共に推進できればと思います。少子高齢の時代を迎え、国民の為になる臨床家教育と、人間形成をご指導賜れば幸いです。貴学の益々の発展を願っております。



公益社団法人
大阪府理学療法士会
会長

山川 智之
Tomoyuki Yamakawa

森ノ宮医療大学創立10周年に当たり心からお祝いを申し上げます。大学創立の草創期からの10年という大きな節目であることを鑑みますと、萩原俊男学長および清水尚道理事長を始め役員・教職員の方々の日頃よりのご苦労に敬意を表すとともに、皆様方のお喜びも一入のことと存じます。また1学部5学科という医療系総合大学として今なお進化を遂げていることは次世代へとつながるものと確信をしております。

医療・介護領域では、地域包括ケアシステム構築により理学療法士がリハビリテーション専門職として大きな役割を求められています。これは、従来の急性期・回復期での働きはもとより地域社会への貢献が求められているものであります。これらの貢献を支えていくには、優秀な専門職となる人材を輩出することが必要であり教育の質的向上がさらに重要となってまいります。医療系の大学教育の使命は、人間成長の果たした医療人を社会へ輩出することです。この意味からも森ノ宮医療大学は、この10年に多くの卒業生が各職場で活躍しており大学が成しえた大きな成果であると考えております。

本年は公益社団法人大阪府理学療法士会も創立50周年を迎える節目の年となり、我々も次の段階にステップアップをすることとなりました。故に、理学療法士は行政や他団体とともにこの大阪の地において大きな飛躍をしなければならないと考えております。そのためにも、今後とも森ノ宮医療大学の皆様方のご理解・ご協力をお願い致します。

10年という大輪を咲かせた森ノ宮医療大学がこの先20年、30年と長きにわたり、多くの人材を輩出されんことを期待しつつ、お祝いの言葉とさせていただきます。



公益社団法人
大阪府看護協会
会長

高橋 弘枝
Hiroe Takabashi

森ノ宮医療大学の創立10周年を謹んでお祝い申し上げます。

「臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する」という建学精神のもと、優秀な医療人材を数多く輩出され、地域医療に貢献してこられた学長様をはじめとする諸先生、職員の皆様に心から敬意を表します。

少子高齢、多死社会において看護職に期待される役割、責任は大きく、医療の現場では、短い入院期間で複雑・高度な医療・看護を集中的に提供することが求められています。また、在宅においても、複数の疾患をもつ患者さんに適時・的確に対応できる高い判断力・高度な看護技術、調整力をもった看護師が必要とされています。

貴学には臨床経験豊かで研究力に長けた先生方が多数在籍され、求められる技術や判断力、高度な調整力を身につけるための教育に尽力しておられます。実践力を修得するための実習施設も充実しており、入学から卒業後のサポート体制、教育環境も万全に整えているとお聞きしており、大変心強く思っております。

“想いのすべてを、医療の力に!”という熱い願いを込めて、丁寧に大切に育てられた学生さんたちが、森ノ宮医療大学の卒業生としての誇りをもち、臨床現場で活き活きと働き続けていただくよう願っています。そして、後輩育成やチーム医療のキーパーソンとしての役割を果たし、患者さんご家族、住民の健康の保持増進に寄与して下さることを信じております。一緒に「看護の心とパワーで、大阪を一層ご機嫌な街に!」して参りましょう。

貴学の今後益々のご発展とご隆盛を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。



一般社団法人
大阪府作業療法士会
会長

上田 任克
Tadayoshi Ueda

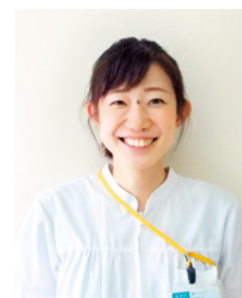
このたび、森ノ宮医療大学が開学10周年記念を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。森ノ宮医療大学は10年の長きにわたりリハビリテーションの専門職である理学療法士を輩出され大阪府の医療に大きく貢献されて参りました。この10年の間、少子高齢化の進展により、リハビリテーションの専門職に求められる役割も大きく変化してまいりました。国は2025年に団塊の世代が後期高齢者となることから、地域包括ケアシステムの構築に力を入れています。その中で、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士などのリハビリテーション専門職は地域ケア会議や介護予防事業などに大きな期待が寄せられているところであります。昨年より公益社団法人大阪府理学療法士会、一般社団法人大阪府作業療法士会、一般社団法人大阪府言語聴覚士会の大阪府におけるリハビリテーション専門職団体が連携して大阪PT・OT・ST連絡協議会という名称で人材育成に取り組んでいるところです。今年度より大阪府の協力をいただき共催という形で実施継続をしております大阪府の期待も感じております。近年の作業療法士に対するニーズとしては、医療現場はもとより地域や在宅へと職域が大きく広がっていることから求人数は大きく増加しており供給不足が続いています。このような時期に本年4月より作業療法学科を設置いただき大変ありがとうございます。今後とも優れたセラピストを輩出され大阪府民の保健・医療・福祉の発展のため引き続き、大阪府作業療法士会へのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

森ノ宮医療大学の今後のご発展、皆様のご健康、ご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

森ノ宮医療大学 1期生の今

本学第1期生として、医療の最前線へ巣立っていった卒業生たち。それぞれのフィールドで、医療職の誇りを胸に活躍しています。

理学療法学科



医療法人錦秀会
阪和記念病院
リハビリテーション科
理学療法士

細見 加代
Kayo Hosomi
(旧姓:門地)

医療人としての礎を育んでくれた母校。 その発展を嬉しく、心強く感じています。

私は今、森ノ宮医療大学と相互連携協定を結んでいる、医療法人錦秀会 阪和記念病院のリハビリテーション科に所属しています。大阪市内の急性期病院(第2救急指定病院)であるため、脳卒中や脊椎疾患、心疾患などの患者様に対するリハビリが中心です。患者様の日でも早い離床をめざし、回復をお手伝いしています。在学中は先輩がいないという状況でしたので、自分たちでバスケットボールやフットサルのサークルを作り、活動したことがいい思い出。実技練習強化チームを作って、実技練習や意見交換に明け暮れたこともありました。ゼミでお世話になった三木屋先生には、卒業後も相談に乗っていただいたり、結婚式に参列していただくほど、公私ともに支えていただいています。母校の10周年はとても嬉しく、その発展を心強く感じます。このたびは、おめでとうございます。



在学中に身についたのは“努力し続ける”姿勢



社会医療法人
信愛会 交野病院
リハビリテーション科
理学療法士

仁科 輝大
Terumasa Nishina

恩師や仲間との出会いや学びのすべてが、 医療者としての自身の原点になっています。

交野市で唯一外科系の科目をもつ交野病院で、回復期病棟専従の理学療法士として働いています。急性期での治療・訓練を終えた患者様に対して、ご自宅への退院をめざすための訓練を行っています。リハビリテーション医や看護師、介護士など他部門の医療者との連携を図りながら、リハビリの質を高めるための取り組みを実践。苦労もありますが、大きなやりがいのある職場です。在学中は、何事もゼロからスタートで刺激に満ちた日々でした。大学初のオープンキャンパスを実行委員リーダーとして仲間たちと作り上げられたことは、今でも私の誇りです。大学の魅力、私たちの想いをいかに受験生に伝えるか、試行錯誤したこともいい思い出です。恩師や仲間との出会い、学び、森ノ宮医療大学で得たことはすべて今の私の原点。これからも立派な医療者を輩出されることに期待しています。



実習指導者としての信頼も厚い

祝辞



公益社団法人
大阪府臨床検査技師会
会長

竹浦 久司
Hisashi Takeura

このたび、森ノ宮医療大学が開学10周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。森ノ宮医療大学が「幅広い知識と高度な専門技術を有し、チーム医療の実践に求められる豊かな感性と高い倫理観を備えた専門職医療人を育成する」の設立目的の元に、鍼灸、理学、看護の幅広い分野で、地域に根ざした多くの人材を輩出されましたことに敬意を表します。また、本年度から臨床検査学科が新設され、4年後より優秀な臨床検査技師が数多く育成されることを大いに期待しています。私たち公益社団法人大阪府臨床検査技師会は、臨床検査技師の学術技能の研鑽を行い、併せて、地域医療および公衆衛生の向上を図り、もって府民の健康の保持、増進に寄与することを目的にしております。臨床検査の進歩は目覚しく、現代医療の診断・治療の上では、必要不可欠となっております。さらに、患者中心の医療を提供するチーム医療の重要性が増し、その中で臨床検査技師は多方面にわたる役割を果たすことが求められています。近年、医療機関における臨床検査技師のニーズは拡大してきており、求人数も増加しております。森ノ宮医療大学におかれましては、今後、チーム医療に貢献する質の高い臨床検査技師を数多く輩出され、大阪府民の健康の増進や医療の発展に大きく貢献していただきたいと期待しております。

森ノ宮医療大学の今後のご発展とご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。



森ノ宮医療学園校友会・
森ノ宮医療大学教育後援会
会長

浜田 暁
Satoru Hamada

森ノ宮医療大学開学10周年おめでとうございます。

開学に遡ること4年前、平成15年11月の学園の評議員会、理事会において400名規模の鍼灸学科を持つ大学構想が審議され、そのことは森ノ宮医療学園専門学校の卒業生を中心に組織される森ノ宮医療学園校友会にも直ちに伝わりました。今まで「工場等制限法」により、大学を都心部に作ることは事実上不可能でしたが、同法が廃止され、さらに大学設置基準の改定により校地面積の基準が緩和され、大阪市内に大学を新設することが可能になったことは、私たち校友会にとって明るいニュースでした。

それまで学園は、医療の専門学校として、鍼灸学科に加え、柔道整復学科新設やカリキュラムをより充実させたアドバンスコースの設置や増員、また施設設備の充実等、外的環境の変化にあわせ内容の充実を図ってきたと聞き及んでいます。その後直ちに大学建設用地の検討に入り、そしてこのコスモスクエア地区に決定されたと伺っています。そこで校友会としても、この地を緑あふれる美観地区になればとの思いから緑地造成の一部に寄付を申し入れ、大阪府や大阪市を初め多くの関係者から多大なご支援と協力を得て、平成19年度に無事開学、大学の校地周辺も緑化が推進され美しいキャンパスとなりました。今でも継続的に寄付等で大学キャンパスの充実を支援することは、私たちの強い使命でもあります。

このキャンパスを卒業生や保護者のみなさま方とともに訪れるたび、大学が質的にも規模的にも大きく飛躍され、関西有数の医療系総合大学としての地歩を確実に進めている様子を見ますと、私たち校友会、教育後援会としても大きな誇りにもなっています。

校友会、教育後援会を代表して、学園と大学のさらなる発展を期待し、開学10周年のお祝いのご挨拶とさせていただきます。

森ノ宮医療大学 1期生の今

鍼灸学科



医療法人社団
英ウイメンズクリニック
統合医療部門
鍼灸師

田島 里美
Satomi Tajima

開学時からの“チーム医療”を意識した学びが、
現在の職場で活かしています。

不妊治療を行う専門のクリニックで、鍼と灸を用いた治療とレーザー治療を担当しています。不妊で悩まれている方の身体は冷えや緊張状態にあることが多く、その緩和に役立っているのが鍼灸治療です。身体面だけでなく、精神面からのフォローも大切にしています。在学中には、チーム医療について学べたことに感謝しています。現在の職場では、さまざまな資格を有する医療者の方々と一丸となって治療を進めなければなりません。鍼灸師は、患者様に対するときは1対1。一人で頑張ることがチームの一員として認めていただくことにつながる、ということを学ぶことができました。当時お世話になった山下先生には、今でも学会などできどきお会いして、ご相談したり、元気付けていただいたりしています。卒業生として、在学生の皆さんに恥じないようこれからも精進します。



一人で頑張る力が、チームの力になっている

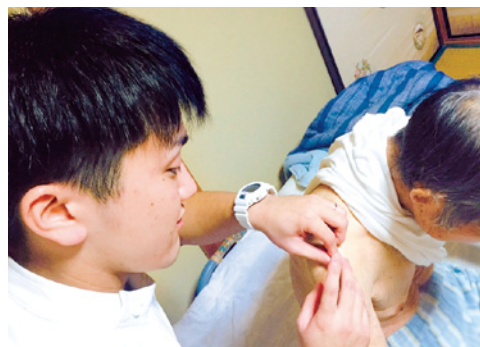


長尾指圧鍼灸院
鍼灸師
あん摩マッサージ指圧師

長尾 敏寛
Toshihiro Nagao

日々学びながら、将来の夢を描いた4年間。
先生方や同級生は、今でも大切な存在です。

森ノ宮医療大学を卒業後、鍼灸院へ就職し、働きながら、あん摩マッサージ指圧師の資格を取得。その後独立し、「長尾指圧鍼灸院」を開業しました。ご高齢の方のご自宅を訪問し、その日の状態に応じた施術を行っています。在学中は勉強に苦労したのですが、その一方で自身の将来像を明確にして、その実現に向けた準備にも時間をかけるようにしていました。修得したことは卒業後の仕事に直結することばかりなので、必死だったことを覚えています。当時ともに学んだ同級生たちとは、今でもたまに会い、近況報告をし合う仲。大学にも時々顔を出しますが、先生方は在学中と変わらず声をかけていただいたり、話を聞いてくださったり、今でも頼もしい存在です。このたびは開学10周年、おめでとうございます。母校の進展に負けないように、私も少しずつ成長できるよう頑張ります。



高齢者の自宅を訪問し適切な施術を行う

10th
ANNIVERSARY

10年の歩み

開学前

前史

学と術を兼ね備えた鍼灸師の養成をめざし
鍼灸学校を設立

戦後、大阪の鍼灸師会や学術団体に所属し、全国的にも指導的役割を担っていたグループがあった。彼らはすでに他の鍼灸学校で教鞭も執っていたが、彼らの理想とする教育を行うべく、新しい学校を創設した。それが、本学の母体となる大阪鍼灸専門学校（現 森ノ宮医療学園専門学校）である。しかし、当時、晴眼者の養成施設を新たに作ることは非常に困難な時代であった。文部省に日参し、昭和48（1973）年4月になんとか開校にこぎつけた。当時の建学の精神は「臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた鍼灸師を育成する 東西医学の融合をはかり、よりよい医療をめざし地域医療に貢献する 鍼灸医学の学問的解明を行い東洋医学の発展に貢献する」であった。この精神、スピリットは、表現が変わっても本学にも受け継がれているのである。



本学の起源となった大阪鍼灸専門学校

創設者たちが抱いていた、大学設立の夢

鍼灸の大学設立は、大阪鍼灸専門学校を開校した当初から、創設者たちが抱いていた夢であった。しかし、国の定める大学の設置基準は厳しく、許可を得るには十分な資金、そして土地を必要とした。そんな中、追い風となったのは、大学の設置基準の緩和や2003年の構造改革特別区域法の施行である。専門学校の拡充か大学新設か議論を重ねた末、森ノ宮医療学園独自の大学を創りたいという志が勝り、大学新設へと舵を切った。

建設地は、大阪市内の中心からアクセスのよい立地を求めた

が、条件を満たす土地を見つけることができず、土地探しは難航を究めた。そこへ舞い込んだのが、「コスモスクエア駅前」という選択肢である。当初は大阪市の中心から遠いというイメージが強く、誰もが消極的であったが、実際に足を運んでみると印象は一変した。都市部に近く、夕日の眺めも美しい。海辺ならではの素晴らしい環境が教育に最適であると確信し、この地に大学の建設を決定したのである。

シンボルマークの策定、そして学生募集へ

建学にあたりシンボルマークを策定。その決定には苦渋した。結果、森ノ宮医療学園として専門学校で使っていたシンボルマークを展開したデザインが採用された。下の青い部分は大阪南港という立地、大海原に漕ぎ出るフロンティア精神を表している。

開学1年目の学生募集が次年度以降にも大きく影響するため、「認可申請中」の早期から広報活動に着手。お年寄りと小さな子供をモチーフにした大きな広告を主要駅に掲示するなど、大規模な交通広告のプロモーションも展開した。この広告は強烈なインパクトがあったことで、賛否両論もあった。大学のホームページも公開し、モバイル端末にも対応した。広報ツールとしては、大学案内と学生募集要項のパンフレットを制作。募集内容、入学試験科目、入試スケジュールも順次確定した。さらに、高校の「校長会」で新しい大学ができることをアナウンスしてもらい、大阪府下の高等学校の進路指導室へ手分けして訪問し、積極的な広報活動を行った。

「大学設置準備室」でのイベントで話題発信

学舎が竣工するまでの間は、大学建設予定地にほど近いWTC（現大阪府咲洲庁舎）の20階に設けた「大学設置準備室」が広報活動の拠点となった。大学案内パンフレットと連動したイメージのパネルを作製し、そのWTCの空間をショールームの体裁とした。大学の建築模型をコーナーに陳列し、新入生が使う予定の教科書なども展示した。ここで、開学時に就任予定の山下教授や金尾教授、青木教授による鍼灸や理学療法法のプレゼンテーションも実施している。さらには、WTC1階のイベントホールにて、高校生や保護者からの注目を集めるためのイベントも開催。陸上ハードル選手の為末さん、プロテニス選手の杉山愛さんに来ていただいたトークショーは好評を博した。

当時の様子を鍼灸学科の山下教授と理学療法学科の金尾教授は、次のように語っている。『WTC20階で何度か開催された大学説明会において、鍼灸治療と鍼灸学科の説明を担当しました。当時は本学を希望する高校生が鍼灸のことをかなり調べてきていると想定していたので、今思い返すとずいぶん難しい研究の話題などを盛り込んでいました。そのため出席者よりもスタッフの教職員の

みなさんに“鍼灸ってそういう側面があるのですね!”と感心されてしまったのが印象的でした。説明会を実施することに20階から見下ろす建設現場の大学新校舎が形作られていく様子を、まるで植えた種から芽が出て成長するのを愛でるような気持ちで眺めていました』（山下教授）。『為末・杉山両選手にお会いしたときに、ものすごくパワーを感じました。この（あまり大きくない）体格で、自分と何が違うのかと思いました。また、模擬講義の題材として、高校生のみなさんが、今までに見たことのない画像や現象の提供を心がけました。インパクトのあるもので、まずは印象を残すことが肝心だと、あの手この手を就任予定の教員たちで話し合ったことを覚えています』（金尾教授）。2006年6月～10月にかけては定期的に「キャンパス予定地見学会」を実施した。WTC20階の「大学設置準備室」から大学建設予定地を見下ろす形で行い、パワーポイントの資料を投影してプレゼンテーションを実施。実物の学舎がまだ完成していないため、写真やポスター、パネルにはこだわったものを用意。会場には多くの高校生、保護者が訪れ、大きな成果を得るに至った。

第1回入学試験は、2学科で1,000名超の受験者

文部科学省による正式認可が11月であったため、翌春までの期間内で集中的に入試を実施する必要があった。2学科の募集ながら延べ1,000名を超える受験者を迎えた。そのため入試には大変な苦勞を要したが、それは同時に本学に寄せられる期待の大きさを物語っていた。入学試験の採点や面接担当者、新たに大学に着任予定の教員、さらには専門学校教職員も含め本学園のスタッフ総動員での対応となった。



開学時のキャンパス

2007

開学

歩み始めた森ノ宮医療大学

記念すべき初年度の入学式は、咲洲地区のハイアットリージェンシー大阪で実施した。開学以来現在まで、同ホテルを入学式および卒業式会場としている。

同年7月には、同ホテルにて「開学式典」を挙行。初代学長 廣橋賢次先生と同じ大阪市立大学医学部出身という縁で、大阪市長関淳一氏も列席された。当時の森俊豪理事長は、後に大阪市役所に表敬訪問し、記念写真の撮影や記念対談を行ったという。式典には、大学開学の意思決定の契機をくださった小畑力人先生（立命館大学を大きく飛躍させた立役者のひとりとも言われる）、佐藤龍子先生（龍谷大学教授）、元関西学院大学学長（当時広島女学院大学学長）今田寛先生、加藤平和先生（日本開発構想研究所）、また、安雲和四郎前校長の研究指導者であった山口雄三先生の妹御である三木昌子氏（大学図書館に寄贈された「朝鮮医学史及び疾病史」の著者・三木栄先生はお義父様にあたる）など、多くの方々を来賓としてお迎えした。この方々のご縁をもって、大学設置構想がより具体化した。



居心地のよいウッドデッキは開学時から学生に人気

同式典に参加した教員各位は、次のような感想を述べている。

『来賓の大阪市長が到着する時間が少し遅れたため、森俊豪前理事長があいさつを引き延ばして話され、うまく時間を調整され、“さすがだな”と感心したことを記憶しています』（山下教授）。『関市長は、私（金尾教授）が2007年3月31日付けで、大阪市立大学病院を退職したときの辞令発行者です。それまで関市長は、同病院内で医師として関わり、その後、私は管理職会で市長としての関先生をお見かけしました。大阪市立大学病院を退職してから、個人的な食事で、関市長とはご一緒する機会に恵まれています』（金尾教授）。『私は、大学開設までの経緯をパワーポイントで作成し、写真などもふんだんに入れたものを作りました。開設のきっかけや、文部科学省への提出書類の中で、大学標準設置経費のことを教えていただいた小畑力人先生や佐藤龍子先生には好評だったのですが、20分ぐらいの予定の中、スライドを50枚近く用意してプレゼンの時間が無くなり、三木屋先生からの“時間が無いぞ”とのまきのサインが入ったのを覚えてます』（安田法人本部長）。

153名の学生から、歴史が幕を開けた

ハイアットリージェンシー大阪において行われた第1回入学式。第1期の学生は、鍼灸学科75名、理学療法学科78名であった。初代学長廣橋賢次先生は、『教養を身につけることが大事であること、ひな鳥のように口を開けて与えられるものを待つのではなく自らが進んで取りに行くこと』とのメッセージを入学生に贈った。当時の様子を教員たちは次のように語っている。

『先輩から教えられることがなかったので、今よりも学生が大学生らしくなるのが遅く、正直言って幼い印象を持ちました。教員も学生にどう接したらよいかわからず、手探りだったと思います。個人面談で学生の意見を集約したら、当時最も多かった意見は“学生食堂がほしい”でした』（山下教授）。『とにかく学校中を自分たちのものと考えていたようで、いたる所に私物が置いてあったような記憶があります。そして、キャンナルクラブ（イーストポート

南側）のガラスがとてもきれいで、走って通り抜けようとした学生が、ガラスにぶつかり救急車で運ばれたことがありました。学生たちも1年生、教員も1年生で、お互いが不安な状態でしたが、一緒に学んだ気がします。学生と教員の距離が近いといわれるのは、これがきっかけかもしれません』（金尾教授）。

真新しい校舎で医療者という新たな目標に向けて駆け出す学生たちの、快活な空気感がキャンパスにあふれた1年目であった。



開学とともにキャンパスには活気があふれた

2009 学習支援体制拡充

文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」に採択される

文部科学省による「大学教育・学生支援推進事業」に採択され、出席や成績をWEB上で確認できるシステムの導入が実現した。これにより、今では学生本人だけではなく、保護者からも成績や出席状況の確認が可能となっている。また、関連分野の専門資格を有する「キャリアカウンセラー」を配置して学生の進路支援を実施。さらに、医療資格を有している方々を本学に講師として迎え、さまざまなセミナーなどを開催している。

2010 第1期生卒業 メディカフェ（学生食堂）誕生

第1期生が社会へ巣立つ

先輩が存在しないという環境の中で4年間学んだ第1期生たちが、晴れて卒業を迎えた。先輩が存在しない環境ならではのエピソードとして、

ソードとして、職員からは次のようなことが寄せられた。『オープンキャンパスで学生スタッフを募集して協力してもらったが、最初は先輩のいない中で何をしたらいいのかわからず学生も困惑の様子でした。しかしその分、当日来られた参加者に一生懸命に個別対応してくれたことが印象的でした。オープンキャンパスのアンケートで“教員や学生が親しみをもって丁寧に接してくれる”という声が多くありますが、その基礎がこの時期にできたのかなと思っています』（山下教授）。

大学開設時には、附属鍼灸施術所はイーストポートの1階にあった。来院される方々はホールで学生が騒いでいる中を通り抜けて施術所入り口まで歩く必要があった。学内からは、ふざけている学生が患者さんについたり失礼な言動があったりするのではないかと心配という声もあったが、学生は患者さんに対して挨拶がしっかりできており、患者さんから褒められることも多々あった。

また、第1期生の就職活動については、教職員による奮闘があった。医療分野の就職は、複数の就職先にアプローチする一般の大学生の就職活動とは異なり、自身が希望する就職先を絞り込んで第一希望に就職するという独特の形になるためである。初の学内就職説明会の開催にも取り組んだが、参画いただける病院や医療施設を呼び込むために、教職員総出で各施設にお願いして確保した。

待望の学生食堂「メディカフェ」誕生

開学当初はキャンパスに食堂がなかったため、昼時にお弁当販売に来ていただけるよう専門の業者に依頼していた。しかし運営が厳しく撤退に至ったこともあった。



学生たち待望の学生食堂「メディカフェ」

2012

鍼灸学科 スポーツ特修コース導入

3分野の資格を同時に取得可能

2012年4月から鍼灸学科に「スポーツ特修コース」が設置された。はり師・きゅう師に加えて、中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）、健康運動実践指導者という3分野を同時にめざすことができるコースである。

「鍼灸学科に教職課程を併設し、鍼灸師の資格を持つ中学校、高等学校の保健体育の教員を養成したい」という森俊豪前理事長の発案によるものである。開設にあたっては、文部科学省より鍼灸学科（鍼灸師養成）と保健体育の教員養成の関連性を示すようにとの指示があり、当初は鍼灸学科（鍼灸師養成）で、保健体育の教職免許を認めることはできない、体育・スポーツのコースを作るようにとの指導もあった。しかし、教職科目の担当教員として大阪教育大学元学長の中谷彪先生を迎えたことにより、教職課程の講師確保が急速に進展。ついに鍼灸学科内に教職課程を得られるコースが誕生した。開設後は、体育教員やスポーツ指導者をめざす受験生の増加につながっている。

コースの目的は、スポーツ技能が優れた、またスポーツを専門とした保健体育教員でなく、医療を知り、医療資格を持つ体育教員の育成。安全面を考慮し、ケガやその予防を実践できる指導者の養成である。前述のように、文部科学省の教職課程の審査は、学科設置と異なり大学教員への審査が「科目相当性」を見るため、本学における担当教員の候補の選出と決定が困難であった。また、文部科学省の設置審議会において意見のついた教員については差し替えて申請する必要があるため、十分に時間が無い中、例えば1週間以内に新たな教員へ変更する事例も数多く発生し、担当職員の手を悩ませた。



本学でめざせる将来の選択肢が広がった

の事務相談が一番厳しく指導され、相談が終わる頃には疲労困憊だった』と振り返る職員もいる。当時、設置準備のノウハウはあまりなく、看護学科と大学院修士課程の同時設置は無謀とも言われたという。例えば、他からのアドバイスとしては、大学院を一年遅らせて、まず看護学科を立ち上げるべきではとの助言もあったが、同時開設にこだわり無事に実現に至った。大学院設置提案者のひとり、山下教授は次のように語っている。『大学としての完成形をめざすには少なくとも修士課程の大学院が必要であろうという想いで大学院設置をめざしました。しかし我々のような小規模な大学が大学院を作れるのか正直不安であったため、何度もコンサルタント会社に通って申請書類の修正を繰り返しました。当時は伝統医学と現代医学の融合がひとつの主要なテーマであったため、それを前面に打ち出して設置の必要性を強調しました』。

大学院生は修士論文のために研究を行う必要があるので、教員にも研究指導を行う義務が生じる。そのため、各教員がそれぞれ専門領域における研究を推進する動機づけにもなっている。夜遅くまで院生が研究室にこもって調べ物や論文執筆を行うという、いわゆる大学らしい光景も見られるようになった。一方で、学部生がもつ大学院進学へのあこがれや認識は未だ低く、大学院で学位を取ることを意味をもっと理解させることが今後の課題となっている。

開設直前には、看護学科、大学院の「開設記念シンポジウム」を開催。看護学科では、宮崎県立看護大学から薄井坦子学長を招き、「看護の本質とこれからの看護」のテーマで開設記念講演会を行った。

大学と地域を知識でつなぐ、学術セミナー

荻原俊男2代目学長の発案により、大学における研究の促進・活性化を目的として、さまざまな分野で活躍する教員や外部講師らによる学術セミナーを本学キャンパスで定期的（月1回）に開催している。目的は、学科・専門分野の垣根を超え、異なる専門研究分野についての知識を深めることを通じ、さらなる研究の推進を図ることにある。学生も研究者の最先端のテーマを自由に聴講できることから、学生たちの医療へのさらなる興味と医学の深さを知る良い機会としても活用されている。



セミナーには多くの聴講者が訪れる

看護学科の学舎、ウエストポート竣工

看護学科開設にあたり、本学の教職員が私立大学において古くから看護学科を開設している東京の聖路加看護大学（現 聖路加国際大学）を見学する機会を得た。参加した教職員の間で好評だったのは、実習室と教員の研究室が各階ごとに隣り合わせになっているという独創的な構造であった。そこで本学もその考えを見倣うこととした。また、当時学科長に就任予定だった村上教授から『若手教員は看護の専門領域ごとに個室にこもるのではなく、できるだけ大部屋でコミュニケーションをはかれる構造が良い』との助言を受け、共同研究室を多く設けたレイアウトが採用された。



ガラスを多く取り入れ、コミュニケーションの活性化を図った

東西医学の融合と補完を担う大学院

大学院修士課程の設立は、山下教授をはじめとした教授陣の起案であった。コンセプトは東西医学の融合と補完。本来の大学の目的を具現化するものである。『この頃の文部科学省大学設置室

学生食堂の誘致を図るものの、当初から、学生だけを対象としての運営はとても困難と予測された。そこで、顧客を学生だけに限らず、近隣のオフィスに勤務するビジネスマンやマンション住民にもサービスをご提供するというアイデアを考案。メニューもできるだけ小回りが利き、営業時間も柔軟な対応が可能なものとする運営事業者を選定することで、経営が成り立つよう工夫した。検討の末、本学園の卒業生である村岡かおる氏のご子息である徳永真介氏が経営するイタリアンレストランの運営で実績のあるジー・クレスト社に決定。待望の学生食堂「メディカフェ」が誕生した。学生が卒業する18時以降もイタリアンレストランとして営業できるような工夫がなされた（現在は株式会社魚国総本社に業務委託先を変更している）。

2011

看護学科・大学院開設

開学当初からめざしていた、看護学科開設

大学設置の完成年度翌年に新学科を設置すべき、特に医療従事者の中心である看護師の養成課程を設置すべきであるという考えは開学当初からあった。最終的には森俊豪前理事長および理事会も最終方針を決定し、看護学科の設置が決定した。

医療技術職の中心である看護学科の設置は、医療大学としては当然必要であると考えていた。森前理事長、重永教授、荻原大阪府立急性期・総合医療センター長（現学長）を中心に看護学科開設事業を推進。看護学科の中心的人材を求め、大阪大学医学部保健学科を訪ね、そこでご紹介いただいたのが、当時、岡山県立大学に在籍していた村上教授（のちに看護学科長に就任）であった。



本学3番目の学科として看護学科が誕生

10
年
の
歩
み2
0
1
1
年
度
（
2
0
1
2
年
度10
年
の
歩
み2
0
1
0
年
度
（
2
0
1
1
年
度

2013

強化指定クラブ設置 校歌完成 大学評価基準認定

教員養成系の大学としての拡充

鍼灸学科スポーツ特修コースの学生が中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育)を取得するためには教育実習を行う必要がある。その際、中学校・高等学校の教育現場からは、大学体育会での活動実績が求められるのである。医療大学であってもしっかりとクラブ活動が行える環境を提供するために、男子サッカー部と女子バスケットボール部の強化を図っている。また、学年の枠を超えた学内・学外活動を積極的に推進することも目的のひとつである。医療系大学として本格的に部活動を展開している大学は少なく、特に男子サッカー部は全日本サッカー連盟に登録されている約400チームで唯一の存在(2016年現在)。つまり、在籍部員全員が医療系国家資格をめざし、なおかつ全日本大学サッカー連盟の傘下でサッカーを行っているのは本学のサッカー部員のみである。種目は異なるが、関西女子学生バスケットボール連盟における本学女子バスケットボール部も同様で、稀有なケースと言える。サッカー部監督は、部員の奮闘を次の言葉で称えている。『試合会場でテキストを開き、問題を出し合う選手たちがいるチームは私を知る限り、本学サッカー部しかありません。おそらく、ここまで日々の過密なスケジュールをこなしている大学生は、全国的にみても限られています。全国の大学生が誰も経験していないプロセスを踏んで、社会に出ていくところに、本学のサッカー部は価値があると考えています』。また、男子サッカー部は、トレーナーとして本学園専門学校の外林先生にもご協力いただき、選手のケアや講習会の開催、専門学校の学生さんとの交流を図る場にもなっている。



男子サッカー部

■ 男子サッカー部

活動は週に3回、平日は舞洲運動場でトレーニングを行い、土・日は公式戦を行っている。夏と春は関西圏を抜け出し、大学サッカー強化フェスティバルに参加。2015年に関西学生サッカー後期リーグ3部で優勝を果たし、2016年は2部昇格の挑戦権を手に入れている。



女子バスケットボール部

■ 女子バスケットボール部

活動は週に3～4回、本学の体育館にてトレーニングを行っている。2016年現在、関西女子学生バスケットボール連盟の3部に所属し、年4回開催される公式戦に向けて日々汗を流す。チームのスローガンは「文武両道」。これを学生が主体となった活動の中で実践している。

校歌「みどりの風」完成

2013年、本学園専門学校校歌の曲と歌詞をベースに、本学の校歌が作られた。作曲は、紙ふうせんの後藤悦治郎氏、平山泰代氏、作詞は専門学校9期生(昭和58年卒)山縣優子氏による専門学校の校歌を、本学のために再び同じメンバーにご尽力いただきアレンジしたものである。

山縣優子氏の歌詞には、近年でこそ当然となっている、伝統医療が古くから訴えている全人医療の大切さ、心身一如の考え方が盛り込まれ、そのために学と術を磨き、謙虚に患者さんから学び、志を追及してほしいという願いが込められている。曲は、あえて校歌らしくない校歌をめざした。ここには、学生が普段から口ずさめるようにとの願いがある。担当職員は、『あの有名な“翼をください”を歌っている平山泰代さんに歌っていただきたいという夢も実現しました』と喜びの言葉を残している。また、歌詞には大学名が入っていないこともひとつの特徴となっている。『大学名を連呼するような校歌ではなく、歌詞とメロディーから大学の想いが学生さんに伝わり、大学名が入ってなくても校歌が大学名とともに学生さんの情感を掻き立て記憶にいつまでも刻まれることでしょう』(井上悦子 鍼灸OSAKA元編集長)。

日本高等教育評価機構による評価基準認定

大学は、2002年の学校教育法の改正に伴い、2004年から認証評価制度が施行されている。これにより、本学も7年以内ごとに文部科学省が認めた認証評価機関から機関別評価を受けることが、法的に義務づけられている。第1期の認証評価では、大きく11評価項目について、詳細で膨大な資料の提出が求められ、その書面審査、実地調査が実施される。特に資料の作成にあたっては、具体的な事実、すなわちエビデンスの提出が重要となるため、日々の積み重ねが、受審における準備に繋がっている。その意味において、文部科学省の事前審査から事後のチェックに行政からの指導方針も変わり、本学は創設期からこの洗礼を受けることにより、最新の大学評価項目への合致を求められていることが、質的向上に大きく寄与した。

認証評価機関による機関別評価を受けることにとどまらず、相前後して文部科学省からの完成年次の実地調査、大学院修士課程の実地調査、高等教育局参事官室の実地調査や、学校法人運営審議会の実地調査等、多くの調査と審査を頻繁に受けた。このことが、一層の質的な充実や完成をめざす契機となった。

2014

鍼灸情報センター開設 看護学科1期生卒業 英語教育特別プログラム開始

鍼灸学科を擁する本学園の使命として

2014年、本学に鍼灸情報センターが開設された。開設の理由について、本学の山下教授は、次のように語っている。『鍼灸は今日では世界有数の医学学術雑誌に研究論文が載るようになっていいるが、一方で不確かな情報もネットや世間にあふれています。その理由のひとつは鍼灸師自身、あるいは患者と接する医療従事者が鍼灸の正しい情報を十分に伝えていないせいではないかと考えました。また、もともと本学園には全国区レベルで業界に認知されている“はりきゅうミュージアム”や“鍼灸OSAKA(学園出版部)”が存在するので、それら学園内の情報と学外で日々更新されている学術情報を集めて体系的に分類しながら外部に積極的に発信する仕組みを考えた結果、鍼灸情報センター(MUMSAIC)の設置に至りました』。なお、MUMSAIC事業は、次の3本柱が軸になっている。1.鍼灸に関する学術・臨床・マスメディア情報の収集と発信 2.本学園所蔵代田文誌カルテの調査、分析、および出版 3.本学園はりきゅうミュージアム所蔵品のWebによる情報発信。



はりきゅうミュージアム

さらに本センターの使命として、同教授は次のように考えている。『近年の鍼灸情報の特徴は、海外のほうが学術、臨床、行政、経済いずれの面においても隆盛しており、マスメディアや国民の目線で見ても華やかです。学術・臨床上に斬新で、患者さんや鍼灸師にとって明るく希望の持てる情報は国内メディアよりも海外メディアのほうが圧倒的に多く、それらはすべて英語で発信されています。これらの情報をいち早く入手して紹介し概説するような活動は、今までにも国内の個人や団体が試みっていますが、機動性・正確性・持続性の面で劣っており、この領域で鍼灸学校関係者から認知され信頼を得る情報発信源を作る必要がありました。また、代田文誌の著した“鍼灸治療基礎学”“鍼灸治療の実際”等は今なおベストセラーであり、代田は斯界において流派に関わらず鍼灸の臨床家および研究者として神格的存在として認められています。その代田の未発表の診療記録を収集・整理して出版することは、代田カルテを所蔵している本学園の使命と考えたのです』。

看護学科から初の卒業生

2011年の開設から4年が経ち、ついに本学から看護師・保健師が誕生した。藤本陽子教授は、次のような言葉を残している。『初の卒業生ということもあり、先輩から具体的な話が聞けない中、多くの学生は面接への不安が大きかったようです。そこで学生支援室と協力体制を構築し、希望する学生に対して模擬面接を実施。何度も面接を希望し、その都度練習をする学生もいました。また、就職説明会を実習病院に呼びかけ大学内で開催しました。各病院のブースを効率的に訪問するための工夫や、ブース滞在の時間制限、音響の問題など、今後の運営に向けた課題を知る機会にもなりました。病院にも学生にも、お互いに有意義な機会になるように今後も取り組んでいきます』。数々の学生支援を展開した成果として、中期目標に掲げた「急性期病院、7対1看護、300床以上、卒後教育が充実している病院への就職」に対して約9割がこのような病院に就職を果たすという実績につながった。

医療のグローバル化に先駆けて

英語教育特別プログラム「MORINOMIYA ENGLISH EDUCATION PROGRAM (=MEEP)」がスタートした。医療分野における英語力を総合的に高め、グローバルな視点を持つ医療人を育成するためのプログラムである。医療分野を有する海外の大学への研修プログラムも組み込まれている。研修先の選定にあたっては、教育水準、治安、金銭面等を考慮し決定している。看護学、理学療法学、鍼灸学の分野を持つ大学での海外研修が可能となっている。



留学先の一つサスカチュワン大学(カナダ)

2015

卒後教育センター

卒業後の継続した学習、スキルアップをめざして

本学の卒業生たちは、大阪府下をはじめ近畿圏、全国で活躍している。日進月歩の医療業界において、卒業後のキャリアを進めるためには、卒業後の継続した学習が重要と考えられることから、「卒後教育センター」を開設するに至った。副学長の金尾教授は次のように述べている。『これまで卒後教育の取り組みは、各教員の裁量の範囲に留まっていました。また、就職先へのアンケート調査では、基礎学力、リーダーシップの発揮、臨床力などが職場の中で不足しているとの意見をいただいていた。卒業生のみならず、各個人や病院、協会などが行っている卒後教育を受講していますが、受講生が必要と感じているもの、教育機関が必要としているもの、実際の現状には乖離が生じていると感じている方は多いと思います。このような状況に対して、教育機関における卒後教育研修のプログラムの開発に関する取り組みは十分になされていないよう

です。そこで、このような本学の現状と外部を取り巻く環境をみると、本学主催による卒後教育の必要性が高いと考え、卒後教育研修の充実を図る場が必要であるという結論に至りました』。

卒後教育センターでは、次の4つの人材の育成をめざしている。
1.地域医療の中心となる人材の育成 2.チーム医療の中心となる人材の育成 3.後進育成の中心となる人材の育成 4.今後の大学を支える人材の育成。今後は、卒後教育プログラムを通じて、受講生の卒後教育の支援拡充を図る。各学科における卒後教育プログラムの充実化を推進し、大学院進学者や研修鍼灸師制度を利用して医療機関への鍼灸師の就職を推し進めていく。また、平成28年度に開設された作業療法学科や臨床検査学科においても、卒業生を輩出した後にはともに卒後教育プログラムを進められるように準備をしている。



母校として卒業後のスキルアップもフォロー

2016

新学科・専攻科開設 キャナルポート・体育館(MTC)

開設準備で育まれた教職員の結束

理学療法学科、鍼灸学科、看護学科、大学院修士課程までは、森俊豪前理事長が中心で文部科学省の事務相談を進めてきたが、臨床検査学科、作業療法学科、助産学専攻科等からは、設置計画の推進は大学経営企画室 小島室長を中心として大幅に新規メンバーを加えて進めることとなった。臨床検査学科は、森誠司先生、作業療法学科は小林貴代先生、横井賀津志先生と本学の金尾教授が中心に設置業務を担当。設置準備前から関わりのあった先生方との開設準備であったため、スムーズであった。また、次に記すように文部科学省事前相談で一旦保留になった際、担



医療系総合大学として発展を続ける

当職員は、文部科学省の審査が困難になったことを実感したという。文部科学省への事前相談の結果、作業療法学科については、書類の受付が「保留」となり、もう一度文部科学省に書類を出し直そう求められた。また、臨床検査学科も書類作成において再提出が必要な事情が発生し、2学科そろって手続きが当初の予定から遅れる事態へと発展。これらの新学科(2学科)の入試の実施も出遅れを余儀なくされた。

2学科を同時並行で設置するにあたり、それぞれの学科の教員就任予定者を開設前々年度(平成26年度)の6月ごろから順次集め、ミーティングを断続的に実施。外部の病院や大学で働く方々が新学科創立のメンバーであったため、会議の集合は午後6時以降となり、打ち合わせが終わって解散となるのが午後9時を回ることも多かった。ただ、担当職員によれば『そうした顔合わせの機会を重ねるごとに

各学科の教員就任予定者間でチームワークが生まれてきた』(大学経営企画室)という。また、事務局側とのコミュニケーションも深まり、新学科が開設される頃にはかなり気心の知れた関係に。さらに新年度から1ヶ月ほどは新棟の竣工が遅れて教員の研究室が使えず、小さな教室が臨時の共同研究室となったが、『あの1ヶ月の大部屋生活のおかげで、教員同士の結束がより高まったと話す教員もいて、今では良い思い出になっている』(大学経営企画室)という。

キャナルポート・ MTC(メディカル・トレーニング・センター)完成

平成26年度に持ち上がった新学科設置構想に伴い、新校舎建設計画が浮上した。また、開学時からある体育館については、

バスケットコートが一面もない広さであり、保健体育の教員免許を取得できるコースを有する本学としては不十分と考えられた。そこで、スポーツに力を入れていること、そして何より学生満足度充実の観点から、新棟だけでなく体育館も合わせて新設することとなった。

計画にあたっては村野藤吾賞受賞の建築家 永田祐三氏と打ち合わせを重ね、また学内の意見をできる限り反映するために分科会も行いながら約半年間構想を練ったうえで2015年2月より新校舎建設工事を着工。その後も2週間に一度の会議を重ね、さまざまな問題をひとつずつクリアし、2016年4月に竣工を迎えた。より広くなった図書館、バスケットコートを2面確保できる体育館を併設した7階建の新校舎。名称は、教職員・学生から募集した名称

「キャナルポート」に決定した。職員は次のように述べている。『特に今回、特徴的なのは学生の自習スペース（ラーニング・commons等）がとて増えたことです。図書館をキャナルポートに移設したこともあり、自習スペースも含めて全学の学生が利用しています。学科の垣根なくいつも明るく活気ある雰囲気になっています』（在川教務室長）。『本学の将来も見据え、充実した学習環境を備えた施設であると自負しています』（瀬川総務室長）。

一方、元体育館として使用されていたスペースは、高等教育機関としての一層充実した学習環境の構築と学生満足度向上に寄与するため、400名収容のホールとして活用する。2016年10月末に改修工事が完了し、その名称は「コスモホール」となった。



2016年に完成したキャナルポート、体育館（MTC） すべての学舎は永田祐三氏の設計・監理による

これからの森ノ宮医療大学

森ノ宮医療大学では2016年度に開設した2つの新学科と専攻科に続き、新たな教職課程の開設、新学科の設置などを計画しています。「医療系総合大学」として更なる躍進をめざします。

新たな教職課程の設置計画

2017年度、保健医療学部看護学科に養護教諭一種免許状を取得できる教職課程の設置を計画しています（申請中）。中学校・高等学校教諭第一種免許状（保健体育）の取得が可能な鍼灸学科スポーツ特修コースに次ぐ、本学2つ目の教職課程です。複雑化する学校現場の問題に対応できる、医療や看護、保健衛生などの幅広い知識を身につけた人材の育成をめざします。



博士後期課程の開設計画

現在、修士課程を有する大学院の保健医療学研究科に2018年度、博士後期課程の開設を構想しています。



臨床工学科（仮称・構想中）の設置計画

2018年度、保健医療学部6番目の学科として臨床工学科（仮称）の設置を構想しています。医療に特化した大学ならではの体制で、「チーム医療」を実践できる医療人を育成します。



看護学科、理学療法学科の定員増加計画

2018年度より保健医療学部の看護学科（現入学定員80名）と理学療法学科（同60名）の入学定員を10名ずつ増員する構想を進めています。



2016年度

臨床検査学科、
作業療法学科、
助産学専攻科を新設



2017年度

看護学科で
「養護教諭一種免許状」が
取得可能に（申請中）



2018年度

臨床工学科（仮称）、
大学院博士後期課程を新設（構想中）

看護学科、理学療法学科で
入学定員各10名増（構想中）

新聞で見る10年史

2007年開学からの10年、森ノ宮医療大学は様々な活動に取り組み、メディアに取り上げられてきました。

10年の歩み

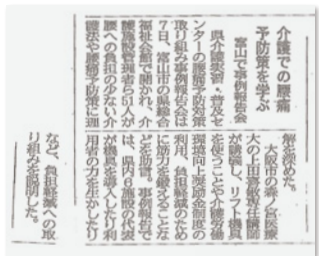
新聞で見る10年史



「災害時の救急医療は」
2012年1月18日 大阪日日新聞



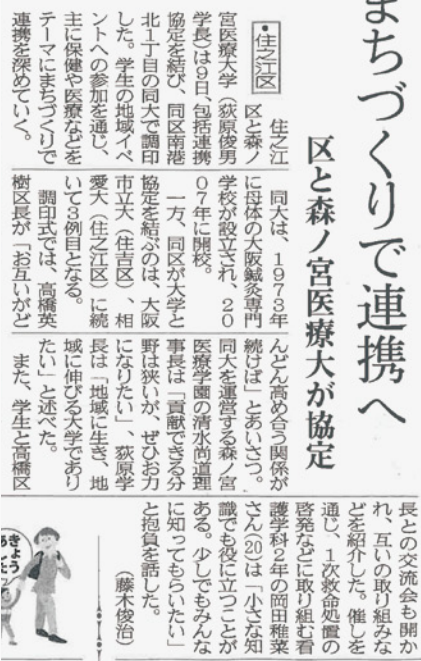
「第1回 ライブを観て、元気になあれ。」
2012年3月号「S-posi」



「介護での腰痛 予防策を学ぶ」
2012年7月8日 富山新聞



「大規模災害時の医療と連携」
2011年12月25日 大阪日日新聞



「まちづくりで連携へ」 2014年1月13日 大阪日日新聞



大学の女子力「患者とのコミュニケーション力磨く」
2015年11月19日 産経新聞



大学の女子力「現場体験通して医療の意義学ぶ」
2015年11月24日 産経新聞



大学の女子力「医療業界 女性が活躍できる分野」
2015年12月3日 産経新聞



「命と健康守る意義」 2012年2月9日 大阪日日新聞



「看護学科と大学院新設 東西医療の融合目指す」 2011年8月11日 大阪日日新聞



「奥深い伝統医療」
2011年9月25日 大阪日日新聞



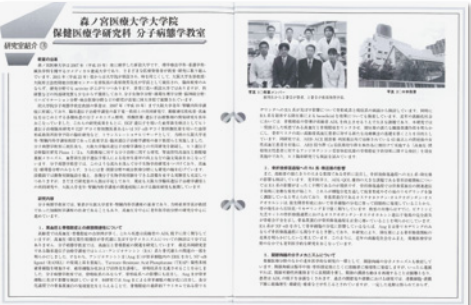
「高齢高血圧患者に対する
ARB+CCB対ARB+利尿薬、有効性は同等」
2013年6月18日 日経メディカルオンライン



「超高齢時代とサクセスフルエイジング」
2012年1月27日 大阪日日新聞



「3品デリランチ Medi CAFÉ」
2011年11月3日 毎日新聞



「森ノ宮医療大学大学院 保健医療学研究科 分子病態学教室」
2011年12月号「血圧」



卒業式「思いやりと感謝忘れず」 2012年3月23日 大阪日日新聞



「終末期医療と死生観」 2011年12月16日 大阪日日新聞

沿 革

1973～

昭和48年(1973年)	4月	大阪鍼灸専門学校開校
昭和52年(1977年)	4月	学校法人 森ノ宮学園となり、あわせて専修学校医療専門課程認可

1980～

昭和57年(1982年)	4月	附属診療所、附属鍼灸施術所開設
昭和63年(1988年)	11月	中国・大連市中医医院と学術研究提携を結ぶ

1990～

平成 4年(1992年)	7月	中国・南京中医薬大学と学術研究提携を結ぶ
平成 7年(1995年)	3月	文部大臣より専門士(医療専門課程)の称号を付与
平成 8年(1996年)	6月	中国・江蘇省江陰市中医院と交流開始

2000～

平成12年(2000年)	4月	柔道整復学科開設、学校名を森ノ宮医療学園専門学校と改称
平成13年(2001年)	1月	本学舎増改築工事完成・はりきゅうミュージアム開設
平成14年(2002年)	4月	緑橋校舎開設
平成15年(2003年)	7月	アネックス校舎完成
平成16年(2004年)	3月	中国・江蘇省江陰市中医院と学術・教育協定締結

平成18年(2006年)	11月	森ノ宮医療大学設置許可
平成19年(2007年)	2月	森ノ宮医療大学校舎完成
	4月	森ノ宮医療大学開学
平成20年(2008年)	11月	森ノ宮医療大学 コスモキャンパス第2校地取得

2010～

平成22年(2010年)	1月	附属診療所、附属鍼灸施術所を緑橋校舎に移転し、森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック、みどりの風鍼灸院へと名称を変更
	3月	森ノ宮医療学園アネックス校舎完成
	4月	大阪府立急性期・総合医療センターと相互連携協定を締結
	6月	森ノ宮医療大学食堂棟「メディカフェ」完成
平成23年(2011年)	3月	森ノ宮医療大学西棟校舎完成
	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科開設
		森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科(修士課程)開設
	7月	医療法人協和会千里中央病院と相互連携協定を締結
	12月	医療法人錦秀会と相互連携協定を締結
平成24年(2012年)	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科 鍼灸コース・スポーツ特修コース・教職課程開設
平成25年(2013年)	5月	公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院と相互連携協定を締結
平成26年(2014年)	1月	大阪市住之江区と包括連携に関する協定を締結
		医療法人協和会と相互連携協定を締結
	2月	中国・浙江省人民医院と学術交流に関する協定を締結
	4月	森ノ宮医療大学鍼灸情報センター(MUMSAIC)開設
	6月	高槻市教育委員会と連携協定を締結
	11月	特定医療法人有隣会東大阪病院と保健医療学部が相互連携協定を締結
		吹田市教育委員会と連携協定を締結
平成27年(2015年)	2月	相愛大学と包括連携協定を締結
	3月	社会医療法人景岳会南大阪病院と相互連携協定を締結
		帝塚山福祉会と相互連携協定を締結
平成28年(2016年)	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部作業療法学科・臨床検査学科開設
		助産学専攻科開設
		新棟「チャンネルポート」、新体育館「MTC」完成
	6月	大阪府立成人病センターと相互連携協定を締結
	10月	新講堂「コスモホール」完成



学科・大学院・専攻科の歩み

since 2007

理学療法学科

これまで築き上げてきた教育を礎に、
真摯な理学療法士を送り出していきたいです。

開学当時の手探りの状態から、徐々に教育内容を充実させてきた10年間だったと思います。教員が増え、さまざまな考えが導入されはじめた時に、「医療人としての理学療法士」という方向性を定めました。20年後の森ノ宮医療大学を近畿圏で1番の養成校にしたいと考え、その基礎作りをしてまいりました。当初は臨床出身の教員も多かったのですが、年を経て教育歴を持つ教員が増えるにつれ、教育方法やカリキュラム編成の見直しが図られました。現在は学生の自発性を育む教育をめざしています。設備もより充実し、教育・研究に大きく貢献しています。世界初の科学的データ※を発表できていることは、特筆に値する研究成果と言えるでしょう。また、学内・学外教育の一貫性を充実させることを目標にしています。本学科の魅力は臨床経験を活かした教育にあると考えており、理学療法の原点である「手で治療する」ことを伝えられていると思います。常に真摯に物事を受け止め、最善を尽くす理学療法士の輩出を使命として、学生とともに「半学半教」の精神の下、理学療法士の理想像を模索していきます。学生はまだ未熟なところも多いですが純粋で、4年後には立派な医療人になりますので、これまでの教育に間違いはないと信じています。今後も、患者様を思いやれるよう指導し、人として愛される理学療法士の育成をめざしていきます。

※Kudo S, Hatanaka Y. Comparison of the foot kinematics during weight bearing between normal foot feet and the flat feet. The Foot and Ankle Online Journal 9 (1): 2 健康足と扁平足での足部の挙動の違いを報告した研究。扁平足は内側縦アーチが低下しているだけでなく、低下の仕方が健康者と異なる点を報告した。



副学長・学科長・
卒後教育センター長・教授
金尾 顕郎 Kenro Kanao



めざすは近畿圏1番の実績を誇る理学療法士養成校

History

- 2007 開学とともに理学療法学科設置
- 初年次における教員引率での臨床見学実習開始
- 2010 理学療法学科合格者に対する入学前教育開始
- 2011 老人保健施設でのボランティア活動開始
- 2012 錦秀会第二泉北病院 臨学共同研修センターでの実習開始
- 田附興風会北野病院での「東西医学研究部門」に参加開始
- 2013 第27回全国リハビリテーション学校協議会学術教育大会開催
- 2014 連携協定病院・施設の特徴にあわせた学生学外研修開始

- 2014 相愛大学、大阪市住之江区、社会福祉協議会との介護予防の取り組み開始
- 田附興風会北野病院での「代謝・消化栄養・体液平衡障害研究部門」に参加開始
- 2015 第1回森ノ宮適塾研修会開催
- 全国リハビリテーション学校協議会教育評価機構による認定
- 第1回近畿リハビリテーション学校協議会セミナー開催
- 教員による理学療法学科研究員の臨床指導開始
- 2016 UCC上島珈琲株式会社イノベーションセンターとの共同研究開始



錦秀会研修センター

初年次教育の充実

1年次の前期の教育がもっとも大切であり、医療大学の学生としての意識付けを行い、成績の分析と面談による指導などを行っています。そして、1年次の前期終了時に病院での臨床見学実習を行い、現場で働く理学療法士の活動を見学し、知識の整理を行っています。

阪和第二泉北病院 臨学共同参画センターでの実習

2012年度より、医療法人錦秀会との相互連携協定の一環として臨床総合実習が開始されました。本学教員が直接学生を指導することで、教育内容の定着度の確認にもなり、学内教育の充実につながります。教員による臨床実習は、大学と実習施設の一貫教育であると考えます。

リハビリテーション学校協議会の活動

本学は、リハビリテーション学校協議会近畿ブロックの主幹校の1つとなり、教育大会の開催やセミナーを実施しています。セミナーでは、全国に先駆けて、学生の持つ悩みへの対応、自死の予防対策、学習障害を持つ学生の対応などをテーマに行っています。

since 2007

鍼灸学科

ますます高まるニーズに応えるべく、
伝統医学の新たな可能性を模索していきます。

開学より10年経ちましたが、鍼灸学科はまだまだ道半ば。創設の10年から成熟の10年に繋げるべく、前に進まなければと考えています。鍼灸学科では鍼灸師の職域開拓と資質向上に努め、2度のカリキュラム変更や中学校・高校の保健体育教員免許が取得可能な「スポーツ特修コース」の設置など、徐々に発展してきました。コース設置に合わせて強化指定クラブを設け、科学的な運動指導法の学びと実践を可能とする環境を整えました。他にも選択科目を拡充し、多方面で活躍できる鍼灸師を輩出する土台を整備しています。本学科の学生は、スポーツに熱中していた者が多く、ポジティブなのが強みです。東京オリンピックによって必要性が高まるスポーツ関連職との連携も含め、鍼灸師として健康・美容・福祉などさまざまな分野で活躍してほしいと考えています。

また、高齢化が進む現代においては、セルフケアの普及と未病対策が重要度を高めています。これは鍼灸治療に代表される伝統医学が重視していることであり、地域医療に鍼灸の知恵を活かしていくべきだと考えます。今後の使命は、他の医療職と連携できる鍼灸師の育成です。本学科は社会に求められる人材を輩出することで、業界からの高い評価をめざします。



学科長・教授
鍋田 智之 Tomoyuki Nabeta



鍼灸の可能性を開く次世代の医療人をめざす

History

- 2007 10月 附属施術所診療開始
- 2008 3月 アメリカ鍼灸見学ツアーに初めて参加(有志のみ)
- 10月 ドイツの医師・助産師の視察団を迎えて本学と交流
- 2009 3月 初めての附属施術所見学実習
- 2010 6月 全日本鍼灸学会第59回学術大会大阪大会にて本学学生が初めて卒業研究発表
- 2011 1期生卒業 国家試験受験

- 2011 西棟完成 附属施術所移転
- 附属施術所卒後研修生受け入れ開始
- 2012 コース制導入
- 2年生・4年生対象の客観的臨床能力試験導入
- 2014 第1回森ノ宮カップ少年サッカー大会開催
- きゅう師国家試験100%達成
- 2016 メディカル・スポーツトレーナー研究会発足

スポーツ特修コース設置

スポーツ分野におけるアスリート強化・ヘルスケアの重要性が増す近年のニーズに対応して設置した、医療資格を有する教師を育成するコース。アスリートの科学的な育成、コンディショニング管理や障がいへの対応など、中学校・高校の教育現場で活躍できる人材輩出をめざします。

客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination: OSCE)

学生の臨床技術・態度を複数人が客観的に評価する試験を導入しました。2年次に臨床実習前評価として、4年次に卒業評価として実施。試験により当該時点での到達目標が示され、学生が普段の学習に目的を持って臨めるようになったと感じます。

きゅう師国家試験合格率100%

医療系大学として、国家試験合格は必達目標です。鍼灸学科は1期生から大学トップクラスの合格率を堅持し、5期生で初の100%を達成。今後も質の高い教育を維持して、資格だけでなく、臨床技術、態度の全てで一流の医療人を輩出しています。



森ノ宮カップ少年サッカー大会

since 2011

看護学科

学科開設当時より教員が一丸となり、
熱い思いで看護教育の道を切り拓いてきました。

2011年4月、全国で200番目に本学の看護学科は誕生しました。6期生を迎えた今でも当時のことを思い出します。私は開設前年度に準備室に入り、看護学科のめざすべき姿を考えました。グローバル化が進み価値観が多様化する中、独自性を模索しましたが、やはり看護職者としての「基盤」をしっかり教育することに決めました。

本学科は、教育の中心に「ヒューマンケア」を据えています。また、今日では看護職の卒後教育が努力義務化されていますが、学生には大学時代に「自学の精神」を身につけてほしいと考えました。これら二つの考え方を軸に、教育目標・カリキュラムポリシーに基づいて教育課程を作成し、数回の見直しを経て今日に至っています。学科開設時のキーワードのひとつは「バリアフリー」。教員同士や教師・学生間でコミュニケーションを活発に、との思いで掲げ、実習室や研究室に透明ガラスを多く取り入れるという工夫もしました。学生の気質はさまざまで、一人ひとりの個性に合わせた教育を行うために、教員は1年次から講義・演習・実習に多くの時間をかけ努力しています。その成果もあり、この6年間で学生は大きく変わりました。臨地実習や4年次のプログラムを通して成長を実感しています。さらに成長を続け、世間から一目置かれる大学になりたいと念じています。



副学長・
学科長・教授
村上 生美 Ikumi Murakami



教員たちの熱い思いが実を結び始めている

History

- 2010
2011

 - 看護学科設置準備室 設置
 - 看護学科開設 1期生88名入学
 - 看護学科開設記念特別講演会 開催
 - チューター制 採用・
 - 「基礎ゼミナール」でゼミ旅行(チューターが担当)
 - 1年次「基礎看護学実習」
 - 子育て支援活動「もりもりひろば」開始
- 2012
2013
2014

 - 2年次後期「基礎看護学実習」開始
 - 3年次後期「領域実習」開始
 - 4年次「卒業研究」等「統合分野」プログラムの実施
- 2015
2016

 - 1期生 国家試験対策を実施
 - 1期生卒業
 - 「介護予防教室」開始
 - 助産学専攻科 開設(定員10名)

統合領域「在宅看護論実習」への取組

本学では、3年次に領域実習をすべて終了し、4年次に在宅看護論実習をします。これは訪問看護ステーションの機能を活用してもらうものです。学生は1～3名に分かれて行動します。大学は17のステーションを開拓しています。学生の事前事後の学修が重要で、貴重な学びになっております。

4年次の「主題実習」と「卒業研究」

「主題実習」はテーマを絞ってその領域を深く学ぶ実習です。学生はこれまでの座学や臨地実習を通して主題を選びます。「夜間の患者のニーズ」や「他職種連携による慢性疾患患者支援」等、8領域35テーマが用意されています。「卒業研究」は3年次に学んだ「看護研究」を活かして先行研究をクリティック、計画を立案・実施し、論文としてまとめます。いずれも主体性が求められる科目です。

学生・保護者・教員による三者面談

医療大学のカリキュラムや単位認定等は「看護職」に繋がるものであり、その重要性は周知されているようですが、三者面談は学生のつまづきを早期に発見・対処し、留年率を0%にするために計画しています。定期試験後のGPAや不合格科目が多い学生が対象になります。教員の一方的な指導ではなく三者が向き合い、相互に理解することがポイントで成果を上げています。



国家試験対策

since 2016

臨床検査学科

医学に貢献したいという強い意志をもつ学生を、
現代医療に求められる人材に育てていきます。

本学がこの10年の間に、関西圏で有数の都市型医療系総合大学に発展したことを素晴らしいことだと思います。本学の魅力は、5つの分野の相互連携により、チーム医療の基盤となるコミュニケーション能力やリーダーシップを学ぶことにあります。さらに、多くの基幹病院での病院実習により臨床力や実践力を修得できることは、都市型医療大学ならではの特長と言えるでしょう。本学科の重要な使命は、臨床検査が必要不可欠な現代医療の現場に、優秀な臨床検査技師を数多く送り出すことにあります。近年は画像診断技術の進歩が著しく総合的な画像診断力が求められるため、最新の実習機器を配備し、画像診断検査に強い人材の輩出をめざしています。本学科の学生は、医学に貢献したいという強い意志や明確な目標をもって勉強に取り組んでいます。また、本学に新設された学科の1期生として、学科の歴史を作っていくという強い気概を感じます。高齢社会における日本の医療では、臨床検査のさらなる発展が不可欠です。当学科では、臨床力が高くチーム医療に貢献する臨床検査技師を育成していきます。次の10年後に向け、森ノ宮医療大学の進化をますます加速させていきたいと考えています。



副学長・
学科長・教授
上田 真喜子 Makiko Ueda



重要度が高まる分野の専門家を育てる

Topics

各専門領域における豊富な教育研究実績を持つ教員が就任

2016年4月開設時には、専任教員11名(教授8名、助教3名)が就任。このうち医師の資格を持つ教員2名、臨床検査技師の資格を持つ教員7名、薬剤師の資格、柔道整復師(医学博士)の資格を持つ教員が各1名で構成され、臨床における実務経験、あるいは医療系大学や大学院での教育経験を有しています。臨床検査技師の資格を持つ者は全員が臨床経験5年以上です。また教授は8名全員が博士の学位を有しています。これより専任教員全員が臨床検査医学の教育研究をするにあたり十分な資質を有しています。

42の中核病院・大病院と実習提携を実現

臨地実習受け入れの承諾をいただいた実習施設は、大学医学部附属病院や府立病院、市立病院を含む地域の基幹病院や大病院であり、ほとんどの施設で臨床検査の各部門が全て整っている環境であるため、質の高い臨地実習が可能です。臨地実習の受け入れ可能人数は84名を超えており、本学科の定員60名に対して十分な臨地実習先が確保されています。

<主な実習病院>

大阪府立急性期・総合医療センター／大阪府立成人病センター／大阪市立総合医療センター／大阪市立大学医学部附属病院／関西医科大学総合医療センター／近畿大学医学部附属病院／兵庫医科大学病院／国立大阪医療センター／国立大阪南医療センター／県立尼崎医療センター／大阪赤十字病院／大阪府済生会中津病院／北野病院／住友病院／大手前病院／大阪労災病院／関西労災病院 など

充実した実習施設・情報システムと機材を整備

臨床検査学科が有する実習室は生理学実習室、形態系実習室、分析系実習室、顕微鏡室の4室。いずれの実習室も基礎的な技術指導が十二分に行えるように整備されています。また、臨地実習先で導入されている電子カルテ環境を想定した画像情報システムを導入し、最新鋭の超音波診断装置(エコー)などの機器と接続。学内実習においても、医療現場のワークフローに近い環境を実現しました。



since 2016

作業療法学科

学科にとっては始まりの年。

一心に前を向き、地域に根付いた作業療法士を送り出します。

作業療法学科は、10周年を迎えた2016年4月に新設されました。丁寧に経験を積み重ね、医療人の自覚を持った作業療法士の育成を大きな目標として、10年の大きな歴史に追従するべく職員一丸となって取り組んでいます。

本学科の大きな魅力は、学生や教職員がチーム医療を意識し、積極的に連携を取ろうとしている点です。教員一同の熱い思いが、学生の意欲・知識・技術を向上させています。今のところ、学生は1期生しかおりませんが、医療人として社会に貢献できることを励みにしています。まだまだ社会性が未熟なもの、他人を思いやれる優しさと、内に秘めた熱い思いを感じます。社会の高齢化に伴い、地域在宅におけるリハビリテーションの拡充・充足への期待は高まっています。その中で、生活リハビリを実践できる作業療法士は重要であり、地域に根付いた作業療法士の養成が本学科の使命であると考えます。臨床力・応用力・探求心を持った作業療法士を育成するために多くの機会を提供し、勉学はもとより、人としてのモラルや接遇にも注力していきたいです。まだ数年かかりますが、医学的観点から患者の方の人生や健康を考えられる作業療法士の輩出をめざします。



副学科長・教授

小林 貴代 *Kiyo Kobayashi*



高齢化社会を支える重要な役割を担っていく

Topics

人材の活用と地域連携

作業療法学科では介護予防から重度認知症・神経筋難病のコミュニケーション支援・ニューロダンスなど多彩な技能を持つ教員が所属しています。臨床に基づく研究とともに、地域に根付く生活行為向上マネジメントへの多彩な取り組みや提案にも力を入れています。

施設・設備の活用

新校舎内にある充実した設備を備えた作業実習室の有効活用として、作業療法士卒後教育支援活動の展開や作業療法ならではの研修・イベントの開催など社会資源としての地域への活用を予定しています。

人材の活用と地域連携

教育・臨床実習・国家試験対策などの学内学習・人材育成の充実を図るため、入学前の学習、入学後の補習・個別指導など大学の教職員が一丸となって一人の学生を支える体制を整えています。また現場の作業療法士や、地域で活動している当事者を講師として招き、医療職としての倫理観の育成にも重点を置いています。



since 2011

大学院

異分野から目的をもって集まる院生たち。

より高度な人材養成のための環境を整えていきます。

大学院の設置が実現したのは開学4年目の秋のことで、学部1期生の卒業年に開設でき安堵しました。現在は博士後期課程の設置を構想中です。振り返るのは全てが完成してからという気持ちで臨んでいます。修士過程設置から7年目を迎える今では、この修了者が臨床現場に出たり教育研究に携わったりと、医療界のさまざまな分野で活躍しています。在籍する院生はとにかく真面目で熱心。仕事をしながら通う者も多く、体力・能力・熱意ともに感心しています。

異職種の特徴や専門性が理解できるということが、本大学院の個性であり、魅力です。これは、病院で働く看護師や理学療法士だけでなく、開業が中心の鍼灸師や柔道整復師も「保健医療学」としてひとつの専攻に集まるためです。現代医療と伝統医療の相互理解の中から、保健医療における新しいアイデアが生まれることに期待しています。

超高齢化社会や心の病など、保健医療におけるニーズの多様化が著しい現代社会において、本大学院の使命は、広い視野と新しい視点から人々の健康増進・回復に取り組める人材の養成にあると考えています。保健医療における高度な専門職を養成し、医療の現場や教育研究機関に送り込むため、修士だけでなく博士も養成できる教育研究環境をめざしていきます。

History

- | | | | | | |
|------|---|--------------------------------|------|---|-------------------------------------|
| 2009 | ● | 大学院修士課程設置準備開始 | 2012 | ● | 9月 設置計画履行状況等調査(アフターケア)面接調査(文部科学省にて) |
| 2010 | ● | 10月 大学院保健医療学研究科保健医療学専攻修士課程設置認可 | 2013 | ● | 3月 修士(保健医療学)の学位を修了者4名に初授与 |
| 2011 | ● | 4月 大学院第一回入学式 | 2016 | ● | 大学院博士後期課程設置準備開始 |

研究成果(一例)

- ◆各種sham鍼対照ランダム化比較試験における鍼の効果量の違い:メタアナリシスによる検討(大川祐世)(指導教員:山下仁)
- ◆慢性心不全モデルラットの運動時換気決定機構の定量評価法開発に関する研究(眞鍋幸)(指導教員:宮本忠吉)
- ◆安定期COPD患者の身体活動に影響を及ぼす関連因子の検討～身体活動と自己管理能力との関連～(白石匡)(指導教員:澤田優子、角田晃啓)



大学院研究科長・教授

山下 仁
Hitoshi Yamashita

since 2016

助産学専攻科

記念すべき10周年の節目に助産学専攻科を開設。

女性の一生を通じた健康支援ができる助産師を育成します。

妊娠や分娩だけでなく、女性の一生に関わる分野の学びである助産教育を、本学で実践できることに感謝しています。本専攻科の1回生には、学内外からの進学者や看護師経験のある社会人など、さまざまな学生が集まりました。実習では、心身ともに負荷のかかる過酷さが伴いますが、母子が命を預けてくださる現場で学べる喜びを、一人ひとりの学生が感じていると思います。本専攻科には、少子化や核家族化を背景とした、現代社会が抱える子育ての課題を理解する科目を設けています。時代とともに女性を取り巻く環境は変化し、それが母子のリスクにつながっているからです。母子の身体的リスク、心理・社会的リスク、そして数々のリスクが相互に関連し合い、次世代を担う子どもたちの育ちに大きな影響を及ぼすことを踏まえ、本専攻科のカリキュラムの特徴である、女性の一生涯を通じたヘルスプロモーションや補完代替医療といった領域からアプローチし、解決をめざしていくことも助産師には求められると考えています。

女性の心と体に寄り添い、新しい命の誕生を支える、次世代を育てる家族を支えることに喜びを感じられる助産師の育成をめざします。



専攻科長・教授

酒井 ひろ子
Hiroko Sakai



連携の歩み

地域コミュニティとの連携

南港コスモスクエア地区を中心とした地域の活性化や、スポーツ振興に寄与する活動を展開。
大阪府や大阪市、近隣大学と協力し、市民の医療知識や予防意識の向上に向けた取り組みも行っています。

地域子育て支援「もりもりひろば」

地域住民にも、看護を学ぶ学生にも役に立つ子育て支援活動

本学近隣住民の子育て支援を目的とした森ノ宮医療大学・子育て支援プロジェクトです。
本学看護学科教員が中心となり、2011年11月から月1回程度のペースで、親子遊びや健康講座・育児相談などさまざまな取り組みを行っています。看護学科の学生にとっては、育児の現場に触れる貴重な機会になっています。



地域貢献活動の拡充

2015年に開始した、地域の高齢者を対象とした「介護予防教室」は、高齢者間の交流活性化にも貢献する地域推進支援事業です。これを契機に、本学は地域住民のみならず健康づくりに貢献する活動を本格的に展開しています。2016年には、「ブレママ・ブレババ教室」として、妊娠中のお母さんやご家族を応援することを目的とした地域子育て支援プロジェクトをスタートしました。

学術セミナー

学内外の教員や講師による研究促進、活性化の機会を創出

2011年から、大学における研究の促進・活性化を目的に、さまざまな分野で活躍する教員や外部講師らによる大学院学術セミナーを本学キャンパスで定期的（月1回）に開催。このセミナーでは、学科・専門分野の垣根を越え、異なる専門研究分野についての知識を深めることで、さらなる研究の推進を図っています。また、研究者の最先端のテーマを自由に聴講できることから、院生や学生たちにとって医療へのさらなる興味を深め、医学の奥深さを知る良い機会にもなっています。



過去のセミナー内容（テーマ）

- ◆「経穴解剖学あれこれ」
- ◆「看護学生におけるコミュニケーション基礎力」
- ◆「Systematic review and meta-analysis in the field of integrative medicine」
- ◆「リラクゼーション法の研究開発」
- ◆「病態分子メカニズム解明と分子治療戦略」
- ◆「足の解剖とバイオメカニクス」
- ◆「新人を指導する看護師を選定する看護師長の判断基準」など

市民公開講座

市民のみなさまの医療知識・予防意識の向上を図る

相互連携協定を締結している大阪府立急性期・総合医療センターと連携し、さまざまな病気やケガをテーマとした公開講座を、2012年から開催しています。同センターで活躍する医師による基調講演のほか、本学の研究者も各学科の特性を活かしたアプローチ方法について講演を実施。多くの市民が参加していることが認証評価機関の（公財）日本高等教育評価機構の評価員による実地調査で、開学間もない新設大学にもかかわらず積極的に展開し活動しているとして高い評価を得ることもつながりました。2016年3月からは、地域のみなさんの健康増進に役立つ話題を発信する無料の公開講座「駅前健康講座」もスタート。血圧測定や健康相談も併せて実施し、「街の保健室」のような役割も担う連続講座をめざしています。



森ノ宮医療大学×大阪府立急性期・総合医療センター連携事業 「予防・治療から社会復帰へのケア最近の進歩」

2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
第1回「がん」	第1回「糖尿病」	第1回「肝炎・肝がん」	第1回「臨床検査の進歩」	第1回「乳がん」
第2回「心臓病」	第2回「認知症」	第2回「前立腺肥大・前立腺がん」	第2回「胃がん」	第2回「骨粗しょう症」
第3回「脳卒中」	第3回「肺ガン」	第3回「慢性腎臓病」	第3回「関節リウマチ」	第3回「高齢者と眼疾患」

地域コミュニティとの連携

ふれあい病院探検隊

高校生が医療の仕事体験できるイベント

大阪府立急性期・総合医療センターが主催する、高校1・2年生を対象としたイベント。病院内のさまざまな仕事を体験することができます。2012年2月から年に1回、毎年実施しており、本学は連携大学として全面協力しています。各学科の体験ブースを出展しているほか、運営スタッフとして本学の学生が携わっています。



森ノ宮医療大学 少年サッカー大会（森ノ宮カップ）

青少年育成とスポーツトレーナー活躍の場

2014年8月から本学とセレッソ大阪スポーツクラブが共同で、小中学生を対象とした少年サッカー大会を開催しています。目的は、健全なサッカー少年の育成、技術向上とコンディショニングの重要性の啓蒙、そしてサッカーを通じた選手間の交流です。本学メディカル・スポーツトレーナー研究会所属の学生（スチューデントトレーナー中級取得者）が、参加選手のコンディショニングサポートのためにトレーナーとして活躍する場にもなっています。



さきしま 咲洲こどもフェスタ

地域活性化プロジェクトへ積極的に参画

民間と行政が連携し、大阪の未来を担う子どもの創造力を育み、教育・医療・スポーツなどの多様な分野からのアプローチによって子どものチャレンジを応援する地域活性化プロジェクト「咲洲キッズチャレンジ」に参画しています。本学は、その一環として2013年から毎年11月に開催されている「咲洲こどもフェスタ〜笑顔がつながる、未来をつくる〜」に出展。「心肺蘇生&AED教室」などを出展し多くの参加者からの好評を得ています。



医療・福祉・教育機関との連携

高度な研究のパートナーとして、学生の実習先として、さまざまな機関と相互連携協定を締結。行政とも連携し、地域医療へも貢献。医療機関との連携は、学生の就職にもメリットとなっています。

大阪府立急性期・総合医療センター 〈大阪市住吉区〉

2010年4月、大阪府立急性期・総合医療センターと本学で相互連携協定が締結されました。同センターは、荻原学長がかつて院長を務めた医療機関です。これが医療機関と本学との初の相互連携協定となりました。協定締結後は、一般市民の方々を対象としたセミナー（市民公開講座）などを開催するとともに、同センターで活躍されている医師・看護師の方々に本学で講義を行っていただくといった取り組みも行われています。また本学教員が、同センターの患者さんに鍼灸治療による緩和ケアを行うなどの協力も実践。現在は、看護学科の多くの卒業生が就職するなど、本学とのつながりは一層深まりを増しています。
※2017年4月からは「大阪急性期・総合医療センター」に改称



大阪府立成人病センター 〈大阪市東成区〉

2016年6月、保健医療・看護・健康増進・福祉等に関わる地域の課題に積極的に取り組んでいくことを目的として、大阪府立成人病センターと相互連携協定を締結しました。同センターでの本学学生の実習の実施や、双方の施設の相互活用、人材の相互派遣等で、連携・協力を推進していく計画です。
※2017年3月に大阪市中心部へ移転、4月からは「大阪国際がんセンター」に改称



公益財団法人 田附興風会 医学研究所 北野病院 〈大阪市北区〉

北野病院との相互連携協定が結ばれたのは、2013年5月。同病院は病床数699床、大阪市内でも有数の規模を誇る病院です。保健医療・医学分野での共同研究や、本学の教員（医師や理学療法士、看護師ら）を北野病院に派遣し、医療活動を行っています。また、就職先として、本学卒業生受け入れなどの面でも連携が図られています。



医療法人錦秀会 〈大阪市住吉区ほか〉

阪和記念病院をはじめ14施設を擁する医療法人錦秀会との間で相互連携協定が結ばれたのは、2011年12月。同会の病院の院内にある研修センター内に「森ノ宮医療大学臨学共同参画センター」を設置させていただいています。臨床実習では学生をよく知る本学の教員も加わり、学生の状況に合わせて同センター内で指導を実施。また、学生たちが自らテーマを決めた研究発表なども実施し、自主的な勉強の場としても活用されています。



医療法人協和会 〈大阪府豊中市ほか〉

2011年7月に千里中央病院、そして2014年1月に医療法人協和会と相互連携協定が結ばれました。協和会は、千里中央病院をはじめとして7施設を擁する医療法人です。協定の目的は、高度な医療・医学の共有。千里中央病院には、鍼灸学科の学外見学実習の場として入院患者さんの訴え、観察所見、環境、苦痛や不安な気持ちなどを直接感じ取るとともに、鍼灸治療の可能性を考察するなど、多様な体験の場をご提供いただいています。鍼灸学科の学生にとっては、さまざまな医療スタッフがチームとして働く姿を見て、入院患者さんを取り巻く医療の実像を学ぶ貴重な機会になっています。



医療・福祉・教育機関との連携

社会医療法人景岳会 南大阪病院 〈大阪市住之江区〉

2015年3月、社会医療法人景岳会南大阪病院と相互連携協定を締結しました。保健医療・健康増進・福祉に関わる地域の課題に対し、ともに取り組んでいくことを目的としています。連携事業のひとつとして、南大阪病院の理学療法士に、本学の学生が直接、臨床の現場で疑問に答えるリハビリテーション見学の機会を設けていただいています。さらに、実習の実施や、双方の施設の相互活用、人材の相互派遣等で、連携・協力を進め、地域の医療向上に貢献しています。



教育委員会 高槻市・吹田市・守口市

教育・研究の充実や発展を目的に、高槻市教育委員会（2014年6月）、吹田市教育委員会（2014年11月）、守口市教育委員会（2015年7月）と連携協定を締結しました。教育実習の実施や、教職員の交流・研修、教員養成の充実を図るなど、さまざまな交流を通して市教委と大学との連携を進めています。



大阪市住之江区

2014年1月、本学のある住之江区と包括連携に関する協定を締結しました。以来、地域保健や生涯学習、まちづくり、子育てなどさまざまな分野で連携・協力していくこととなりました。同区内の学校への学生ボランティアの派遣、まちづくり・まちおこし企画への学生の参加などが行われています。



相愛大学 〈大阪市住之江区〉

2015年2月、本学と同じく住之江区内にあり、食と健康のイベントを共同開催したこともある相愛大学と包括連携協定を締結しました。調印式において清水尚道理事長は『管理栄養士を養成する発達栄養学科を有する相愛大学と連携することで、(管理栄養士を含む複数の医療専門職がチームを組んで治療やケアにあたる)チーム医療の教育を進めていけるのではないかと。互いの大学の得意分野を重ね合わせ、発展していきたい』との期待を示し、荻原俊男学長は、『医療系の本学にとって、文化系が強い相愛大学との連携は刺激になる。ともに補完しあい、協力しあっていきたい』と語りました。今後も、教職員研修などさまざまな連携活動を進めていく予定です。



社会福祉法人帝塚山福祉会 〈大阪市住吉区〉

2016年1月に、社会福祉法人帝塚山福祉会と相互連携に関する協定を締結。同年3月には、同会の特別養護老人ホーム「阪和帝塚山苑」で情報交換会を実施しました。高度な医療・医学教育を共有し、保健医療・福祉にかかわる地域の課題に積極的に取り組むことで、活力ある地域社会の形成・発展に寄与することをめざしています。また、保健医療・医学分野での共同研究や、本学から医療スタッフを派遣して行う医療活動、人材育成等にも取り組んで行く予定です。



データ・資料集

□ 学舎の発展進化

2007年の開学以来、森ノ宮医療大学はより高度で専門的な学びを実現するため、キャンパスの拡充、施設の充実を図ってきました。今後も更なる発展へ向け、取り組んでいきます。

第1期（2007年 4月～）



開学時の全景



学生ホール

理学療法学科、鍼灸学科の2学科を有する大学として、森ノ宮医療大学いよいよ開学。

2007年春、森ノ宮医療大学は先進企業のビルや研究開発拠点が立ち並ぶ南港咲洲コスモスクエア地区に誕生しました。海と緑に囲まれた教育環境で学生たちがのびのびとキャンパスライフを過ごすことができます。清潔感溢れる白を基調に、学園のカラーである緑やビビッドなカラーをアクセントとしたデザインが印象的な建物は、村野藤吾賞を受賞した建築家 永田祐三氏による設計です。

1階には地域の方々にも利用していただける図書館や鍼灸施術所などが設置され、「地域とともに発展する大学」をめざし、歩み始めました。

校舎の変遷



第2期（2010年 6月～）



ウエストポート(西棟)の外観



学生食堂 メディカフェ



はり・きゅうコスモス治療院

2010年6月 待望の学生食堂 メディカフェ誕生。

学生のみなさんからの要望に応じて誕生した学生食堂は、おいしいメニューの数々と木の温もりと安らぎを感じられるインテリアが特徴。オープン直後から、学生のみなさんに親しまれる場所になりました。一般の方々にも開放し、好評をいただいています。よりよいサービスの提供をめざしてリニューアルなども行っています。

看護学科が開設され、さらなる発展をめざす。

2011年4月からの看護学科の開設に伴い、地上6階建てのウエストポート(西棟)が建設されました。最新の施設・医療器具の設置、教室の配置の工夫など看護技術を学ぶ環境が整っています。2011年夏には「はり・きゅうコスモス治療院」が西棟に移り、リニューアルしました。



第3期（2016年 4月～）



キャナルポート(南棟)の外観



体育館 メディカル・トレーニング・センター



図書館 メディカル・アイ

作業療法学科、臨床検査学科を新たに開設し、医療系総合大学へ。

2016年4月に開設された作業療法学科、臨床検査学科の実習、講義を行う学舎としてキャナルポート(南棟)が建設されました。新学科の実習室・講義室以外にも新図書館や新トレーニングルームなども設置され、バレーボールの国際基準をクリアする天井高を誇る新体育館も併設しています。

また、キャナルポート内には、学生同士だけでなく教員を交えてディスカッションや自習ができるオープンスペースが設けられ、新たな学習スタイルが実現可能となっています。



□ 広報活動

森ノ宮医療大学では、学生募集広報とは一線を画する広報活動を展開しています。
 本学のブランド力の強化、社会的な認知度の向上を目的として、本学の理念や特徴、“想い”を社会に発信することが、
 在学生の愛校精神の育成、教職員・卒業生のモチベーションアップにもつながっています。

シンボルマーク・タグライン



本学のロゴマークは、「いのち(生命原理)」や「はじまり」、「対立物が統一された完全状態」を意味する“たまご”をモチーフとしています。中心のMは、「Morinomiya(森ノ宮)」 「Medical care(医療)」 「Medicine(医学)」 「Mind(精神)」を象徴し、青色の波を象っている部分は本学のキャンパスが位置するベイエリア「海」を表現しています。

また、「想いのすべてを、医療の力に。」というタグラインには、医療者をめざす学生
 のみなさんの熱い気持ちと、学生のみなさんの熱意に応える教職員の誠意が込め
 られています。

新聞広告



2015年から朝日新聞、読売新聞を中心にシリーズ広告を展開。本学の理念とめざす教育について、「医療者をめざす決意の瞬間」をテーマとした物語とビジュアルで表現しています。医療・教育業界、広告業界など多方面から好評をいただきました。

電車車内中吊り広告



近畿地区のJR、主要私鉄、大阪市営地下鉄で車両内の中吊り広告を展開。本学の理念と、医療系総合大学としての充実度を表現しています。B3ワイド版の紙面が目目を集めました。

学内報「モリマガ」



2014年8月から、定期的に学内報「モリマガ」を発行しています。在学生の活躍ぶりや熱意、学内では見られない教職員の素顔を紹介するコーナーをはじめ、本学の社会的な活動報告、各部署から学生のみなさんへの告知など、充実の内容で構成。発刊のたびに学内の注目を集めています。

□ 学内行事

年に一度のビッグイベント「森ノ港祭」をはじめ、業界のトップランナーによるセミナーなど、
 日々の授業や実習だけでなく、さまざまな方面から医療に触れ、成長の刺激になる行事を開催しています。

大学祭「森ノ港祭」

学生のみなさんが中心となって開催される、年に一度の大学祭「森ノ港祭」。例年趣向を凝らしたイベントやブースを用意し、学生が親睦を深めるだけでなく、一般の方々にもご好評をいただいています。健康体力測定やAED体験など、医療大学ならではのコーナーも人気です。



森ノ港祭 テーマ一覧

- ◆平成19年度／一期一会～153のスタート～
- ◆平成20年度／以心伝心～2nd impact～
- ◆平成21年度／MOORIES 夢にときめけ 明日にきらめけ 目指せ!医療人!!
- ◆平成22年度／医療馬伝

- ◆平成23年度／医療仁 一過去から現在を繋ぐ助け合いの心
- ◆平成24年度／医心伝心
- ◆平成25年度／医生懸命
- ◆平成26年度／一医専心
- ◆平成27年度／医風凜然

キャリア支援セミナー

本学では、医療業界やスポーツ業界に深く関わりその一線で活躍されている方による講演会や講座を、全学生を対象とした「キャリア支援セミナー」として随時開催。自身の将来像を描ききっかけ、学びへのモチベーション向上など、学生一人ひとりの大きな刺激になっています。

平成21年

- 12月 日本プロサッカーリーグ／ヴァンフォーレ甲府・サンフレッチェ広島、元トレーナー 竹田亘氏をお招きし、スポーツトレーナーになるために必要な知識、トレーナー時代の実体験等についての講演会を実施。

平成22年

- 12月 埼玉西武ライオンズコンディショニングコーチであり、理学療法士の南谷和樹先生をお招きして、コンディショニングコーチの業務内容や必要な知識等の講義を実施。

平成23年

- 8月 理学療法士、はり師・きゅう師で南大阪病院 リハビリテーション科 科長 山川智之先生をお招きして、これからの医療を支える「理学療法士」「鍼灸師」の未来展望をテーマとした講演会を実施。
- 10月 日本プロバスケットボールbjリーグ京都ハンナリーズでトレーナー兼マネージャー兼通訳をしているアスレティックトレーナーの菊地紀子先生をお招きして、アスレティックトレーナーになるために必要な知識や実体験についての講演会を実施。

平成24年

- 2月 住友病院 老人看護専門看護師の中筋美子先生をお招きして、急性期病棟の現場の実態やチーム医療をテーマとした講演を実施。
- 5月 元阪神タイガース チーフトレーナー、はり師・きゅう師、アスレティックトレーナーである猿木忠男氏をお招きして、最も多かったスポーツ傷害とその対応方法についてテーピング実技を交えた講演を実施。
- 6月 大阪府立成人病センターがん相談支援センター所長の大島明氏をお招きして、キャリアと禁煙をテーマに講演会を実施。
- 10月 理学療法士でありアスレティックトレーナーの吉村直心氏をお招きして、膝の機能障害について実技を交えた講演を実施。

- 12月 ブラジル生命倫理委員会委員 ジョゼ・アラウージョ・リマ・フィリョ氏をお招きして、エイズ対策、性教育に関する特別講義を実施。

平成25年

- 1月 奈良女子大学保健管理センターの高橋裕子氏をお招きして、禁煙対策ならびに受動喫煙に関する講演会を実施。
- 6月 みどりの風クリニック所属の理学療法士 岡野雅俊氏をお招きして、「スポーツに特化した医療現場の実態」をテーマに、実技を交えた講演会を実施。

平成26年

- 1月 大阪府立中河内救命救急センターの救急看護認定看護師 富岡小百合氏をお招きして、「仕事内容や病院内での他職種との連携、学生時代にやっておくべきこと」をテーマに講演会を実施。
- 1月 本学鍼灸学科卒業生で、現在セイリン株式会社に営業担当として勤務しておられる寺田充孝氏をお招きして「仕事内容や就職活動体験談」をテーマとした講演会を実施。
- 1月 ミズノ株式会社大阪総務課 石戸隆氏、永井慎也氏をお招きして「企業が求める人材、スポーツ分野へ就職する学生の心構え」をテーマとした講演会を実施。
- 6月 森ノ宮医療学園専門学校鍼灸学科の卒業生であり、元セレッソ大阪 トップチーム専属トレーナー、現在はスポーツトレーナーとして活躍されている百地俊史氏をお招きして「スポーツトレーナーの実態」をテーマとした講演会を実施。

平成27年

- 11月 元サッカー日本代表キャプテン 宮本恒靖氏をお招きして「挑戦し続けることで得られること」をテーマに目標を持つことの大切さや逆境にいかに対応するか等をテーマとした講演会を実施。

□ 教員一覧 (平成28年9月8日現在)

学長・副学長・学部長

学 長	萩原 俊男
副学長	上田 真喜子 金尾 顕郎 村上 生美 吉岡 敏治
学部長	青木 元邦

教授

氏 名	所 属
青木 元邦	理学療法学科 / 大学院 / 健康管理センター長 / 学習支援センター長
安部 辰夫	看護学科
伊津美 孝子	看護学科 / 大学院
井手口 範男	鍼灸学科 / 大学院
上田 陽之	理学療法学科
上田 喜敏	理学療法学科 / 大学院
上田 真喜子	臨床検査学科[学科長] / 大学院
上西 洋子	看護学科 / 大学院
老田 準司	鍼灸学科 / 大学院
大巻 悦子	看護学科 / 大学院
萩原 俊男	大学院
尾崎 朋文	鍼灸学科
金尾 顕郎	理学療法学科[学科長] / 作業療法学科[学科長] / 大学院 / 卒後教育センター長
川畑 浩久	臨床検査学科 / 大学院
河村 廣幸	理学療法学科
木田 岩男	看護学科
北村 清一郎	理学療法学科 / 大学院
来栖 清美	看護学科 / 大学院
小島 賢久	鍼灸学科 / 大学経営企画室室長
小林 貴代	作業療法学科[副学科長]
小林 吉晴	臨床検査学科
小宮山 恭弘	臨床検査学科
酒井 ひろ子	看護学科 / 大学院 / 助産学専攻科[専攻科長]
坂本 豊次	鍼灸学科
竹岡 啓子	臨床検査学科
中田 敬吾	鍼灸学科
中谷 彪	鍼灸学科 / 大学院
仲西 宏元	鍼灸学科 / 大学院 / 附属鍼灸施術所長
長野 仁	大学院
中村 允之	理学療法学科 / 大学院 / 附属図書館長
鍋田 智之	鍼灸学科[学科長] / 大学院
野坂 修一	理学療法学科 / 大学院
橋本 富子	看護学科 / 大学院
平木 治朗	理学療法学科 / 大学院
福島 信也	看護学科
藤本 陽子	看護学科[副学科長]
前川 佳敬	臨床検査学科[副学科長]
松尾 安希子	理学療法学科
松下 太	作業療法学科
宮本 忠吉	鍼灸学科[スポーツ特修コース長] / 大学院
村上 生美	看護学科[学科長] / 大学院
森 誠司	臨床検査学科[副学科長]
森谷 正之	理学療法学科 / 大学院 / 動物実験施設長 / 共通教育センター長
安田 実	鍼灸学科 / 法人本部長 / アドミッションセンター長
山下 仁	鍼灸学科 / 大学院[研究科長] / 鍼灸情報センター長
横井 賀津志	作業療法学科[副学科長]

教授

氏 名	所 属
吉岡 敏治	大学院
吉村 弥須子	看護学科[副学科長] / 大学院
脇 英彦	臨床検査学科[副学科長]

准教授

氏 名	所 属
緒方 昭子	看護学科 / 大学院
久木元 由紀子	看護学科 / 大学院
澤田 優子	理学療法学科 / 大学院
清水 容子	看護学科 / 大学院
高橋 友子	看護学科
田中 晶子	看護学科
中原 英博	鍼灸学科[副学科長] / 大学院
西村 千年	看護学科
橋本 弘子	作業療法学科
藤重 仁子	鍼灸学科 / 大学院

講師

氏 名	所 属
飯田 恵子	看護学科
伊黒 浩二	理学療法学科
上田 佳世	看護学科
上田 真也	鍼灸学科 / 大学院
角田 晃啓	理学療法学科 / 大学院
木内 隆裕	理学療法学科 / 大学院
工藤 慎太郎	理学療法学科 / 大学院
黒岩 志紀	看護学科
住田 陽子	看護学科
関口 敏彰	看護学科
外村 昌子	看護学科

助教

氏 名	所 属
大月 隆史	鍼灸学科
黒木 美紀	看護学科
小林 彩香	臨床検査学科
佐伯 康匠	臨床検査学科
高崎 雷太	鍼灸学科
津崎 勝代	看護学科

客員教授

宮田 正彦	…………	坂本病院 分院 副院長	杉町 勝	…………	国立循環器病センター 循環動態機能部 部長
勝谷 友宏	…………	勝谷医院 院長 / 大阪大学大学院特任准教授	稲垣 正司	…………	国立循環器病センター 循環動態機能部 室長
狭間 敬憲	…………	大阪府急性期・総合医療センター 神経内科主任部長	川田 徹	…………	国立循環器病センター 循環動態機能部 室長
谷尾 吉郎	…………	大阪府急性期・総合医療センター 副院長	山川 智之	…………	南大阪病院 診療支援部長 兼リハビリテーション科長
福岡 富子	…………	公益財団法人 集団力学研究所	藤原 勝夫	…………	金沢学院大学 スポーツ健康学研究科 教授
猪原 繁美	…………	大阪府立急性期・総合医療センター 看護部長	岩瀬 和裕	…………	大阪府立急性期・総合医療センター 副院長
福並 正剛	…………	大阪府立急性期・総合医療センター 院長	宮脇 優輝	…………	宮脇鍼灸院 院長
加藤 綾子	…………	住友病院 看護部長	千葉 一雄	…………	大阪医療福祉専門学校 教務部長
笹田 友恵	…………	大阪府立成人病センター 看護部長	浦山 きか	…………	東北大学、東北薬科大学 高等教育学生支援機構
高木 洋	…………	国立循環器病センター 循環動態機能部 室長	寺田 勝彦	…………	近畿大学医学部附属病院 リハビリテーション部
岡田 倫之	…………	大阪府立急性期・総合医療センター 臨床検査科主任部長	佐藤 正人	…………	森ノ宮医療大学 鍼灸情報センター

□ 大学の役職者 (平成28年9月8日現在)

[理事長]		
森 俊豪	(平成19年4月～平成25年3月)	
清水 尚道	(平成25年4月～現在)	
[学長]		
廣橋 賢次	(平成19年4月～平成23年3月)	
荻原 俊男	(平成23年4月～現在)	
[副学長]		
中村 辰三	(平成19年4月～平成22年3月)	
松原 勝美	(平成19年4月～平成22年3月)	
安雲和四郎	(平成19年4月～平成26年12月)	
金尾 顕郎	(平成25年4月～現在)	
村上 生美	(平成28年4月～現在)	
吉岡 敏治	(平成28年4月～現在)	
上田真喜子	(平成28年4月～現在)	
[学部長]		
中村 辰三	(平成19年4月～平成23年3月)	
金尾 顕郎	(平成23年4月～平成25年3月)	
青木 元邦	(平成25年4月～現在)	
[学科長]		
鍼灸学科		
山下 仁	(平成19年4月～平成25年3月)	
鍋田 智之	(平成25年4月～現在)	
理学療学科		
金尾 顕郎	(平成19年4月～現在)	
看護学科		
村上 生美	(平成23年4月～現在)	
作業療学科		
金尾 顕郎	(平成28年4月～現在)	
臨床検査学科		
上田真喜子	(平成28年4月～現在)	
大学院保健医療学研究科長		
山下 仁	(平成23年4月～現在)	
助産学専攻科長		
酒井ひろ子	(平成28年4月～現在)	
[館長・所長]		
附属図書館長		
倉林 譲	(平成19年4月～平成23年3月)	
中村 允之	(平成23年4月～現在)	
附属施術所長		
山下 仁	(平成19年4月～平成23年3月)	
仲西 宏元	(平成23年4月～現在)	

[設置準備室長]		
博士後期課程設置準備室		
荻原 俊男	(平成28年4月～現在)	
臨床工学科設置準備室		
荻原 俊男	(平成28年4月～現在)	
新学科・新専攻科設置準備室		
荻原 俊男	(平成26年9月～平成28年3月)	
看護学科設置準備室		
村上 生美	(平成22年4月～平成23年3月)	
[事務局長]		
安田 実	(平成19年4月～平成21年3月)	
成田 丈朋	(平成21年4月～平成22年12月20日)	
安田 実	(平成22年12月21日～現在)	
[事務局長代理]		
中川 俊敬	(平成24年4月～平成27年2月)	
川鍋 史一	(平成27年3月～平成28年3月)	
[事務局長次長]		
澤田 規	(平成22年12月21日～平成24年3月)	
[室長]		
総務室		
成田 丈朋	(平成19年4月～平成24年3月)	
中川 俊敬	(平成24年4月～平成25年3月)	
瀬川 敏未	(平成25年4月～現在)	
教務室		
小島 賢久	(平成19年4月～平成22年1月)	
澤田 規	(平成22年2月～平成23年3月)	
在川 洋平	(平成23年4月～現在)	
学生支援室		
澤田 規	(平成19年4月～平成23年3月)	
在川 洋平	(平成23年4月～平成25年3月)	
中川 俊敬	(平成25年4月～平成26年3月)	
森川 卓	(平成26年4月～現在)	
広報室		
斎藤 恒之	(平成19年4月～平成24年3月)	
石塚 充弘	(平成24年4月～現在)	
会計室		
向山 輝	(平成27年4月～平成27年9月)	
岩崎 光治	(平成27年10月～現在)	
大学経営企画室		
小島 賢久	(平成22年4月～現在)	
研究支援室		
葉廣 泰代	(平成25年4月～平成27年3月)	
内部監査室長		
三木 完二	(平成22年4月～現在)	

□ 文部科学省 科学研究費助成事業 採択課題一覧

- 宮本忠吉,基盤研究(C),代表,2007-2008,「システム生理学的アプローチを用いた生体呼吸調節系の運動トレーニング適応機構の解明」
- 森谷正之,基盤研究(C),分担,2008-2010,「咀嚼を制御する高次脳の下行抑制性および興奮性神経機構の機能形態学的解明」
- 山下仁,基盤研究(C),代表,2009-2011,「音楽家鍼灸の確立可能性・質問調査およびランダム化比較試験によるエビデンスの検討」
- 住田陽子,若手研究(B),代表,2009-2011,「中堅看護師のキャリア・アンカーとメンタリングに関する実証的研究」
- 宮本忠吉,基盤研究(C),代表,2010-2012,「運動と中心循環の相互因子が呼吸化学調節系の動的フィードバック制御機能に及ぼす影響」
- 松熊秀明,基盤研究(C),代表,2010-2012,「鍼灸刺激の転写因子NFκBを介する局所炎症・免疫機転への分子メカニズムの解明」
- 青木元邦,基盤研究(C),代表,2011-2013,「骨リモデリングにおけるRA系関与機構とARB骨保護作用・老年者高血圧治療の新概念」
- 上田真也,研究活動スタート支援,代表,2011-2012,「遠隔虚血プレコンディショニングが心臓自律神経へ与える影響と心筋保護作用機序の解明」
- 酒井ひろ子,基盤研究(C),代表,2011-2013,「思春期女子が受ける母親の喫煙のリスクと母娘への禁煙・防煙支援プログラムの開発」
- 鍋田智之,基盤研究(C),代表,2011-2013,「はり師・きゅう師における多施設共用臨床実習前評価のための客観的臨床能力試験の検討」
- 前田薫,若手研究(B),代表,2011-2013,「随意的な立位姿勢制御の中枢過程へバイオフィードバック法がおよぼす影響」
- 森谷正之,基盤研究(C),代表,2011-2013,「脳卒中に伴う摂食嚥下障害発生機構の神経解剖学的解明」
- 前田薫,基盤研究(B),分担,2011-2015,「高齢者における足関節運動に限定した動的姿勢制御に対する下腿筋力トレーニング効果」
- 前田薫,挑戦的萌芽研究,分担,2011-2013,「座位から立位への姿勢変換における感覚参照枠再構成の時期と各種感覚情報の役割」
- 森谷正之,基盤研究(C),分担,2011-2013,「顎運動異常に関わる高次脳の抑制機構をin-vivo単一運動ニューロンで解明する」
- 川畑浩久,基盤研究(C),代表,2012-2014,「転写因子HIF-1を軸とした関節拘縮分子メカニズムの解明:新規分子治療製剤開発」
- 中原英博,若手研究(B),代表,2012-2014,「鍼通電刺激を用いた、心血管疾患リスク軽減のための外部制御システムの探索」
- 吉村弥須子,基盤研究(C),代表,2012-2014,「肝移植後のレシピエントの妊娠・出産における心理的体験と医療支援に関する研究」
- 山下仁,基盤研究(C),代表,2012-2015,「急増した鍼灸学科の医療安全教育の評価と、質の保持・向上のためのコンテンツ開発」
- 宮本忠吉,基盤研究(B),分担,2012-2014,「運動習慣が脳循環動態・脳循環調節機能に及ぼす影響:脳疾患予防の基礎的研究」
- 伊津美孝子,基盤研究(C),代表,2013-2015,「21世紀型中間看護管理者の情報活用能力変革プログラムの開発」
- 荻原俊男,基盤研究(C),代表,2013-2015,「医療系大学における教員養成の意義と課題についての総合的研究」
- 澤田優子,若手研究(B),代表,2013-2015,「ハイリスク新生児の運動発達と育児環境が発達軌跡に及ぼす影響」
- 中正美,若手研究(B),代表,2013-2014,「足底への振動刺激に対する姿勢応答の刺激部位による違い」
- 青木元邦,基盤研究(C),代表,2014-2016,「軟骨局所RA系の役割と意義:高血圧と軟骨変性疾患の相関分子メカニズム」

- 上田佳世,若手研究(B),代表,2014-2016,「院内助産における医療の質指標の実用化に向けた研究」
- 上田真也,若手研究(B),代表,2014-2016,「13C安定同位体比分析を用いた高強度運動時の骨格筋糖脂質代謝動態の定量解析」
- 増山祥子,基盤研究(C),代表,2014-2016,「代替医療系研究論文の利益相反と結論に関するシステムティック・レビュー」
- 前田薫,基盤研究(C),代表,2014-2016,「立位位置が上肢運動時の予測的姿勢制御および注意・予測に関わる脳電位におよぼす影響」
- 森谷正之,基盤研究(B),分担,2014-2016,「新発見された前頭前皮質-中脳路核路と口腔顔面感覚、顎運動、ストレスとの関連の解明」
- 緒方昭子,基盤研究(C),代表,[継続]2013-2015,「ソフトマッサージの苦痛緩和効果の検証」
- 工藤慎太郎,若手研究(B),代表,2015-2016,「扁平足の三次元足部挙動に基づく足底挿板の開発」
- 酒井ひろ子,基盤研究(C),代表,2015-2017,「能動喫煙・受動喫煙の累積喫煙量がもたらす卵巣予備能低下と生活習慣病リスクの評価」
- 中原英博,基盤研究(C),代表,2015-2017,「呼吸循環代謝システムの長期トレーニング適応における順序発現機構の解明」
- 宮本忠吉,基盤研究(B),代表,2015-2018,「システム定量解析を用いた運動時換気亢進の病態生理機構の解明」
- 吉村弥須子,基盤研究(C),代表,2015-2017,「生体肝移植ドナーの妊娠・出産の体験と医療支援に関する研究」
- 上田喜敏,基盤研究(C),分担,2015-2017,「障害のある人の個別性に対応する支援機器相談・提供システム構築に関する実証的研究」
- 緒方昭子,挑戦的萌芽研究,分担,[継続]2014-2016,「オキサリプラチンによる末梢神経障害へのM-Testの有用性の検討」
- 来栖清美,基盤研究(C),分担[継続]2013-2015,「子どもの睡眠を中心とした生活臨床に関する実証的研究」
- 飯内順子,挑戦的萌芽研究,分担,2015-2017,「自己調整学習を促進するモーションキャプチャー利用ボディメカニクス教材の開発」
- 吉村弥須子,基盤研究(C),分担,2015-2018,「生体肝移植ドナーの術後支援に向けた相談システムの開発と評価」
- 緒方昭子,基盤研究(C),代表,2016-2018,「腹腔鏡下手術後患者に対するソフトマッサージ効果の比較ランダム化試験」
- 木内隆裕,若手研究(B),代表,2016-2018,「上肢筋力のCross-educationに関わる神経基盤の解明」
- 古谷ミチヨ,挑戦的萌芽研究,代表,[継続]2014-2016,「性同一性障害当事者の性別移行を促進する生活支援プログラムの開発」
- 宮本忠吉,挑戦的萌芽研究,代表,2016-2018,「高位中枢の予測見込みの制御が激運動時の呼吸循環動態及び神経内分泌機能に及ぼす影響」
- 吉田えり,基盤研究(C),代表,2016-2018,「看護師のストレス反応を低減させる職場環境改善プログラムの確立」
- 青木元邦,基盤研究(C),分担,2016-2018,「核酸医薬とステントグラフトのハイブリッド治療による大動脈瘤進展抑制効果の検討」
- 来栖清美,基盤研究(C),分担,2016-2018,「子どもの危機克服に備えた生活臨床に関する臨床教育学的研究」

□ 10年間の主な業績 (抜粋)

[2016]

- Fujiwara K, Irei M, Kiyota N, Yaguchi C, Maeda K. Event-related brain potential and postural muscle activity during standing on an oscillationg table while the knee, hip, and trunk are fixed. J Physiol Anthropol, 2016
- Kudo S, Hatanaka Y. Comparison of the foot kinematics during weight bearing between normal foot feet and the flat feet. The Foot and Ankle Online Journal, 2016
- Kudo S, Nakamura S. Relationship between hardness and deformation of lavender oil by acceleration of granulation and wound flexion using ultrasound imaging. Journal of Bodywork & Movement Therapies, 2016
- Masui T, Seki S, Sumida K, Yamashita K, Kitamura S. Gross anatomical classification of the courses of the human sublingual artery. Anat Sci Int, 2016
- Mori HM, Kawanami H, Kawahata H, Aoki M. Wound healing potential of lavender oil by acceleration of granulation and wound contraction through induction of TGF- β in a rat model. BMC Complement Altern Med, 2016
- Nakagawa M, Naruko T, Sugioka K, Kitabayashi C, Ueda M, et al. Enhanced expression of natriuretic peptide receptor-A and B in neutrophils of culprit lesions in patients with acute myocardial infarction. Molecular Medicine Reports, 2016
- Seki S, Sumida K, Yamashita K, Baba O, Kitamura S. Gross anatomical classification of the courses of the human lingual artery. Surg Radiol Anat, 2016
- Sotobayashi D, Kawahata H, Anada N, Ogihara T, Aoki M, et al. Therapeutic effect of intra-articular injection of ribbon-type decoy oligonucleotides for hypoxia inducible factor-1 on joint contracture in an immobilized knee animal model. J Gene Med, 2016
- Takamaru N, Nagai H, Ohe G, Tamatani T, Sumida K, Kitamura S, et al. Measurement of the zygomatic bone and pilot hole technique for safer insertion of zygomatic implants. Int J Oral Maxillofac Surg, 2016
- Uchinaka A, Tasaka K, Mizuno Y, Maeno Y, Mori S, et al. Laminin α 2-secreting fibroblasts enhance the therapeutic effect of skeletal myoblast sheets. European Journal of Cardio-Thoracic Surgery, 2016
- Umemoto S, Ogihara T, Matsuzaki M, Rakugi H, Ohashi Y, et al. Effects of calcium channel blocker-based combinations on intra-individual blood pressure variability: post hoc analysis of the COPE trial. Hypertension Research, 2016
- Yoshimura Y, Umeshita K, Kubo S, Yoshikawa Y. Anxieties and coping methods of liver transplant recipients regarding pregnancy and delivery. Journal of Advanced Nursing, 2016
- 藤重仁子. A Review of Theoretical Frameworks of the International Migration: Mechanisms of Forming the Pools of Potential Emigrants to the United States. 森ノ宮医療大学紀要, 2016
- 木内隆裕, 中根征也. 徒手筋力検査技術のためのルーブリック評価導入. リハビリテーション教育研究, 2016
- 小林彩香, 木村雅友, 植田清文, 田中千琴, 榎本英介, 他. 気管支肺胞洗浄液細胞診が有用であったアレルギー性気管支肺アスペルギルス症 (allergic bronchopulmonary aspergillosis : ABPA) の1例 (Cytology of bronchoalveolar lavage fluid can aid in the diagnosis of allergic bronchopulmonary aspergillosis: a case study). 日本臨床細胞学会雑誌, 2016

- 中谷彪, 安田実, 老田準司, 松熊秀明. 医療系大学・学部における保健体育教員養成制度の総合的研究. 森ノ宮医療大学紀要, 2016
- 老田準二, 中谷彪, 大月隆史. 台湾の大学における保健体育科教員養成制度に関する調査研究. 森ノ宮医療大学紀要, 2016
- 大月隆史, 増山祥子, 保坂政嘉, 山下仁. 鍼治療の診療ガイドラインの可能性と限界 慢性腰痛に対する鍼治療技法のガイドライン試作による検討. 森ノ宮医療大学紀要, 2016
- 酒井ひろ子. ニコチン薬理作用・ニコチン依存度の性差～女性の喫煙対策の課題. 日本 Womens health 学会誌, 2016
- 高崎雷太, 藤沼到, 鶴田真到, 老田準司, 永瀬佳孝. ハーフパイプにおける複合運動学習. 森ノ宮医療大学紀要, 2016
- 竹岡啓子, 日高洋, 菱沼昭, 池田勝義, 大久保滋夫, 他. 甲状腺刺激ホルモン (TSH) のハーモナイゼーション. 臨床病理, 2016
- 吉田えり, 山田和子, 森岡郁晴. 看護師のストレス反応に対する「いいね!」シール導入の効果. 産業衛生学雑誌, 2016
- 吉岡敏治 (総監修), 公益財団法人日本中毒情報センター (編集) 「発生状況からみた急性中毒 初期対応のポイント」, へるす出版, 2016

[2015]

- Aoki M, Kawahats H, Sotobayashi D, Yu H, Ogihara T, et al. Effect of Angiotensin II Receptor Blocker, Olmesartan, on Turnover of Bone Metabolism in Bedridden Elderly Hypertensive Women with Disuse Syndrome. Geriatr Gerontol Int, 2015
- Izumi T, Majima Y. Present Situation and Problems in Information Utilization by Head Nurses. International Journal of Innovation, Management and Technology, 2015
- Kato T, Seki S, Higashiyama M, Masuda Y, Kitamura S, et al. Anatomical organization of descending cortical projections orchestrating the patterns of cortically induced rhythmical jaw muscles activity in guinea pigs. Neurosci Res, 2015
- Kawahata H, Sotobayashi D, Aoki M, Shimizu H, Ogihara T, et al. Continuous infusion of angiotensin II modulates hypertrophic differentiation and apoptosis of chondrocytes in cartilage formation in a fracture model mouse. Hypertens Res, 2015
- Kudo S, Hisada T, Sato T. Determination of the fascicle length of the gastrocnemius muscle during calf raise exercise using ultrasonography. Journal of physical therapy science, 2015
- Kudo S, Hatanaka Y. Forefoot flexibility and medial tibial stress syndrome. Journal of Orthopedics Surgery, J Orthop Surg (Hong Kong), 2015
- Miyamoto T, Nakahara H, Ueda S, Manabe K, Kawai E, et al. Periodic breathing in heart failure explained by dynamic and static properties of respiratory control. Clin Med Insights Cardiol, 2015
- Nakahara H, Kawada T, Ueda S, Kawai E, Miyamoto T, et al. Electroacupuncture most effectively elicits depressor and bradycardic responses at 1 Hz in humans. Auton Clin Res, 2015
- Nakahara H, Ueda S, Miyamoto T. Low-Frequency severe-intensity interval training improves cardiorespiratory functions. Med Sci Sports Exerc, 2015
- Nomura H, Yanagida J, Ueno R, Sakai H, Rai SK. Analysis of Intake Nutrients and the Nutritional and Healthy State of the people in the Nepalese Mountaionus Village (Dithal VDC). Kobe Tokiwa College Academic Journals, 2015
- Ogihara T, Saruta T, Rakugi H, Saito I, Shimamoto K, et al.

- Combination therapy of hypertension in the elderly: a subgroup analysis of the Combination of OLmesartan and a calcium channel blocker or diuretic in Japanese elderly hypertensive patients trial. Hypertension Research, 2015
- Rakugi H, Ogihara T, Saruta T, Kawai T, Saito I, et al. Preferable effects of olmesartan/calcium channel blocker to olmesartan/diuretic on blood pressure variability in very elderly hypertension: COLM study subanalysis. Journal of Hypertension, 2015
- Shimada F, Nosaka S. Our experience with dental loss caused by anesthesia: sorry works program report. 麻酔と蘇生, 2015
- Uchino K, Higashiyama K, Kato T, Haque T, Moritani M, et al. Jaw movement-related primary somatosensory cortical area in the rat. Neuroscience, 2015
- Ueda S, Nakahara H, Manabe K, Miyamoto T. Neural regulation of hindlimb muscle contraction-induced glucagon-like peptide-1 and peptide YY secretion in rats. Journal of Physical Fitness and Sports Medicine, 2015
- 福島豊, 北川裕利, 野坂修一. カリウム吸着除去用血液フィルターを用いた急速輸血におけるカリウム除去能の検討. 蘇生, 2015
- 鍋田智之, 山下仁. 不眠に対する円皮鍼治療の効果 ―シヤム鍼対照N-of-1試験―. 全日本鍼灸学会雑誌, 2015
- 緒方昭子. ソフトマッサージの効果―脳波結果から―. 南九州看護研究誌, 2015
- 大寺祥佑, 金沢星慶, 金沢奈津子, 木内隆裕, 中山健夫. ガイドラインの研究・評価用チェックリストAGREE IIによる理学療法診療ガイドライン第1版の質評価. 理学療法学, 2015
- 外村昌子. 介護老人福祉施設における車いす使用高齢者のリスクとリスク因子に関する看護師の理解. 日本老年看護学会誌, 2015

[2014]

- Kanazawa H, Kawai M, Kinai T, Iwanaga K, Mima T, et al. Cortical muscle control of spontaneous movements in human neonates. European Journal of Neuroscience, 2014
- Kawai E, Nakahara H, Ueda S, Manabe K, Miyamoto T. Quantitative analysis of cardiorespiratory response to odor stimulation by inhaling sweet majoram essential oil. Proc. Life Engineering, 2014
- Kim YI, Fujita S, Hwang YJ, Nagase Y. Comparison of Abdominal Drainage and No-drainage after Elective Hepatectomy: A Randomized Study. Hepatogastroenterology, 2014
- Kim YI, Fujita S, Hwang YJ, Nagase Y. One Hundred Hepatectomies without Hospital Death under Intermittent Hepatic Inflow Clamping for 30 Minute Duration. Hepatogastroenterology, 2014
- Kojima A, Ito Y, Kitagawa H, Matsuura H, Nosaka S. Direct negative chronotropic action of desflurane on sinoatrial node pacemaker activity in the guinea pig heart. Anesthesiology, 2014
- Kojima Y, Hamada Y, Kawaguchi N, Mori S, Nagase Y, et al. Effects of Moxibustion on Body Core Temperature Responses in Rats. Nano Biomed, 2014
- Kudo S, Hatanaka Y, Naka K, Ito K. Flexibility of the transverse arch of the forefoot. Journal of Orthopedics Surgery, 2014
- Manabe K, Nakahara H, Ueda S, Kawai E, Miyamoto T. Quantitative analysis of respiratory operating point during exercise: Development of a rat model of mimicked exercise

- under anesthesia. Proc. Life Engineering, 2014
- Miyamoto T, Bailey DM, Nakahara H, Inagaki, M, Ogoh S. Manipulation of central blood volume and implications for respiratory chemoreflex control function. Am J Physiol. Heart Cir. Physiol, 2014
- Ogihara T, Saruta T, Rakugi H, Saito I, Shimamoto K, et al. Combinations of olmesartan and a calcium channel blocker or a diuretic in elderly hypertensive patients: a randomized, controlled trial. Journal of Hypertension, 2014
- Ogoh S, Sato K, Okazaki K, Miyamoto T, Secher F, et al. A decrease in spatially resolved near-infrared spectroscopy-determined frontal lobe tissue oxygenation by phenylephrine reflects reduced skin blood flow. Anesth Analg, 2014
- Ueda S, Nakahara H, Manabe K, Miyamoto T. Neural regulation of hindlimb muscle contraction-induced glucagon-like peptide-1 and peptide YY secretion in rats. Journal of Physical Fitness and Sports Medicine, 2014
- Ooi Y, Inui-Yamamoto C, Suzuki T, Nakadate H, Nagase Y, et al. In vivo magnetic resonance imaging at 11.7 Tesla visualized the effects of neonatal transection of infraorbital nerve upon primary and secondary trigeminal pathways in rats. Brain Research, 2014
- Watanabe O, Chompikul J, Mongkolchat A, Pimpisan N. Performances of village health volunteers in elderly care in Muang District, Nakhon Ratchasima Province, Thailand. Journal of Public Health and Development, 2014
- White A, Boon H, Alraek T, Lewith G, Yamashita H, et al. Reducing the risk of complementary and alternative medicine (CAM): challenges and priorities. European Journal of Integrative Medicine, 2014
- 藤重仁子. Unauthorized Immigrants in the United States. 森ノ宮医療大学紀要, 2014
- 平岡進, 今宿康彦, 北川裕利, 野坂修一. 人工心肺離脱後, 気管支内血栓を認めた1症例. 麻酔, 2014
- 伊津美孝子, 真嶋由貴恵, 嵩田聡. eラーニングを活用した新人看護師研修プログラムの開発と評価. 教育システム学会誌, 2014
- 野坂修一, 上野裕美, 北川裕利, 千原孝志. 腹部大動脈瘤の緊急手術により大量出血を来した1症例. 蘇生, 2014
- 澤田 規, 石丸圭莊. 光線による経穴刺激が大腿四頭筋の滑走性に及ぼす影響. 日本レーザー治療学会誌, 2014
- 辻 涼太, 小島 賢久, 池上 典子, 久下 浩史, 坂口 俊二, 他. 女性の冷え症状に関する因子の検討 冷え・腰痛・月経関連症状尺度の関係性について. 東洋医学とペインクリニック, 2014

[2013]

- Izumi T, Majima Y, Shimada S. The reality and challenges of middle nursing manager participation in e-learning for new nurses. International Proceedings of Economics Development and Research. Education and Management Innovation II, 2013
- Kida I, Aoki M, Ogihara T, Rakugi H. Anti-Apoptotic Effect of Human Telomerase Reverse Transcriptase on Endothelial Cells under Oxidative Stress, Independent of Telomere Elongation and Telomerase Activity. Immunology, Endocrine & Metabolic Agents in Medicinal Chemistry, 2013
- Ogoh S, Sato K, Nakahara H, Okazaki K, Miyamoto T, et al. Effect of acute hypoxia on blood flow in vertebral and internal carotid arteries. Exp Physiol, 2013

□ 10年間の主な業績 (抜粋)

- Ogoh S, Nakahara H, Okazaki K, Bailey DM, Miyamoto T. Cerebral hypoperfusion modifies the respiratory chemoreflex during orthostatic stress. Clin Sci, 2013
- Sakai H,Ohashi K. Association of menstrual phase with smoking behavior,mood and menstrual phase-associated symptoms among young Japanese women smokers. BMC Women's Health, 2013
- Ueda S, Nakahara H, Miyamoto T. Effects of exercise on glucagon-like peptide-1 (GLP-1). Journal of Physical Fitness and Sports Medicine, 2013
- Ueda S, Yamanaka A, Nakahara H, Miyamoto T. Effect of polymorphisms in beta3-adrenergic receptor and uncoupling protein 1 genes on metabolism during exercise in athletes. Bulletin of Morinomiya University of Medical Sciences, 2013
- Ueda S, Miyamoto T, Nakahara H, Shishido T, Usui T, et al. Effects of exercise training on gut hormone levels after a single bout of exercise in middle-aged Japanese women. Springerplus, 2013
- Yutani T, Kawahata H, Sotobayashi D, Kawanami H, Aoki M. Anti-inflammatory Effect of Electro-acupuncture via Reduction in Colonic Peristalsis in a Mouse Model of Inflammatory Bowel Disease. Immunology, Endocrine & Metabolic Agents in Medicinal Chemistry, 2013
- 榊井靖之.「哲学」再考からの「経営哲学」の再定義と「看護哲学」の可能性.経済論叢, 2013
- 澤田 規, 北川裕利, 野坂修一. プロプラノロールの虚血・再灌流時心筋透析液ミオグロビン濃度に及ぼす影響. 麻酔, 2013
- 白田久美子, 吉村弥須子, 前田勇子, 別宮直子, 岡本双美子, 他. 手術後の消化器がん患者に対する他職種チームのサポートによるQOLの変化. 日本がん看護学会誌, 2013
- 田中晶子, 清水房枝.看護師長が新人を指導する看護師として適格とする判断基準.日本看護医療学会誌, 2013
- 辻丸泰永, 鍋田智之, 仲西宏元. 森ノ宮医療大学附属施術所における鍼灸受療患者の不眠症状の変化に関する調査. 森ノ宮医療大学紀要, 2013

【2012】

- Fujiwara K, Maeda K, Irei M, Mammadova A, Kiyota N. Changes in event-related potentials associated with postural adaptation during floor oscillation. Neuroscience, 2012
- Furuya S, Aoki T, Nakahara H, Kinoshita H. Individual differences in the biomechanical effect of loudness and tempo on upper-limb movements during repetitive piano keystrokes. Human movement science, 2012
- Haque T, Akhter F, Kato T, Sato F, Moritani M, et al. Somatotopic direct projections from orofacial areas of secondary somatosensory cortex to trigeminal sensory nuclear complex in rats. Neuroscience, 2012
- Makino H, Aoki M, Hashiya N, Yamasaki K, Ogihara T, et al. Long-term follow-up evaluation of results from clinical trial using hepatocyte growth factor gene to treat severe peripheral arterial disease. Arterioscler Thromb Vasc Biol, 2012
- Miyamoto T, Inagak M, Takaki H, Kawada T, Shishido T,et al. Adaptation of the respiratory controller contributes to the attenuation of exercise hyperpnea in endurance-trained athletes. Eur J Appl Physiol, 2012
- Ogihara T, Matsuzaki M, Umemoto S, Rakugi H, Matsuoka H, et al. Combination therapy for

- hypertension in the elderly: a subgroup-analysis of the COmbination therapy of hypertension to Prevent cardiovascular Events(COPE) trial. Hypertension Research, 2012
- Okada Y, Sim X, Go MJ, Wu J-Y, Ogihara T, et al. Meta-analysis identifies multiple loci associated with kidney function-related traits in east Asia populations. Nature Genetics, 2012
- Park HL, Lee HS, Shin BC, Liu JP, Shang QH, Yamashita H, et al. Traditional medicine in China, Korea, and Japan: a brief introduction and comparison. Evid Based Complement Alternat Med, 2012
- Usui T, Yoshikawa T, Orita K, Ueda S, Katsura Y, et al. Comparison of salivary antimicrobial peptides and upper respiratory tract infections in elite marathon runners and sedentary subjects. Journal of Physical Fitness and Sports Medicine, 2012
- カルデナス暁東, 酒井ひろ子, 川村千恵子. 青年期にある女性の喫煙行動と首尾一貫感覚(SOC)の関連性に関する研究. 日本母性衛生学会誌, 2012
- 小谷正登, 来栖清美, 岩崎久志. 中学生における睡眠を中心とした生活臨床に関する研究 -中学生8,059名への生活実態調査をもとに. 子ども環境学研究, 2012
- 澤田 規, 川畑浩久, 綾田剣一, 穂積直裕, 中村辰三. フラクタル次元解析法を用いた筋損傷に対する評価法の検討. 日本超音波骨軟組織学術研究, 2012
- 若井和子, 西村千年, 道廣睦子. 母性看護学実習において保健指導実習体験が及ぼす学習効果. 第42回日本看護学会論文集(看護教育), 2012

【2011】

- Ehret GB, Munroe PB, Rice KM, Ogihara T, Caulfield MJ, et al. Genetic variants in novel pathways influence blood pressure and cardiovascular disease risk. Nature, 2011
- Fujimoto M, Nakano M, Terabe F, Kawahata H, Ohkawara T, et al. The Influence of Excessive IL-6 Production In Vivo on the Development and Function of Foxp3+ Regulatory T Cells. J Immunol, 2011
- Fujiwara K, Yaguchi C, Shen X, Maeda K, Mammadova A. Activation timing of postural muscles during bilateral arm flexion in self-timing, oddball andsimple-reaction tasks. J Electromyogr Kinesiol, 2011
- Kato N, Takeuchi F,Tabara Y, Kelly TN, Ogihara T, et al. Meta-analysis of genome-wide association studies identifies common variants associated with blood pressure variation in east Asians. Nature Genetics, 2011
- Matsuzaki M, Ogihara T, Umemoto S, Rakugi H, Matsuoka H, et al. Prevention of cardiovascular events with calcium channel blocker-based combination therapies in patients with hypertension: a randomized controlled trial. Journal of Hypertension, 2011
- Miyake T, Aoki M, Osako MK, Shimamura M, Nakagami H, et al. Systemic administration of Ribbon-type decoy oligodeoxynucleotide against nuclear factor κB and Ets prevents abdominal aortic aneurysm in rat Model. Mol Ther, 2011
- Morishita R, Makino H, Aoki M, Hashiya N, Ogihara T, et al. Phase I/IIa Clinical Trial of Therapeutic Angiogenesis Using Hepatocyte Growth Factor Gene Transfer to Treat Critical Limb Ischemia. Arterioscler Thromb Vasc Biol, 2011

- Nakahara H, Furuya S, Masuko T, Francis PR, Kinoshita H. Performing music can induce greater modulation of emotion-related psychophysiological responses than listening to music.Int J Psychophysiol, 2011
- Sakai H,Kawamura C,Cardenas X,Ohashi K.Premenstrual and menstrual symptomatology in young adult females who smoke tobacco.The Journal of Obstetrics and Gynecology Research, 2011
- Terabe F, Fujimoto M, Serada S, Shinzaki S, Kawahata H, et al. Comparative analysis of the effects of anti-IL-6 receptor mAb and anti-TNF mAb treatment on CD4+ T cell responses in murine colitis. Inflammatory Bowel Disease, 2011
- Yamashita H. "Hari": not embedded needles. CMAJ (Canadian Medical Association Journal), 2011
- Yamazaki D, Tabara Y, Kita S, Hanada H, Ogihara T, et al. TRIC-A channels in vascular smooth muscle contribute to blood pressure maintenance. Cell Metabolism, 2011
- 伊津美孝子, 真嶋由貴恵, 前川泰子, 寫田聡, 田中典子, 他. 就職内定時からeラーニングを活用した新人看護師研修方法の効果と課題. 第12回日本医療情報学会看護学術大会論文集, 2011
- 高林範子, 村上生美.コミュニケーションにおける看護学生の感受性および非言語メッセージと患者満足度の関係…模擬患者とのコミュニケーション場面を通して.日本看護研究学会誌, 2011

【2010】

- Fujitani W, Hamada Y, Kawaguchi N, Mori S, Kojima Y, et al. Synthesis of Hydroxyapatite Containing Manganese and Its Evaluation of Biocompatibility. Nano Biomedicine, 2010
- Fujiwara K, Toyama H, Asai H, Maeda K, Yaguchi C. Regular heel-raise training focused on the soleus for the elderly: evaluation of muscle thickness by ultrasound. J Physiol Anthropol, 2010
- Fujiwara K, Kiyota N, Kunita K, Yasukawa M, Maeda K, et al. Eye movement performance and prefrontal hemodynamics during saccadic eye movements in theelderly. J Physiol Anthropol, 2010
- Hohki S, Ohguro N, Haruta H, Nakai K, Kawahata H, et al. Blockade of Interleukin-6 Signaling Suppresses Experimental Autoimmune Uveoretinitis by the Inhibition of Inflammatory Th17 Responses. Exp Eye Res, 2010
- Iida C, Oka A, Moritani M, Kato T, Haque T, et al. Corticofugal direct projections to primary afferent neurons in the trigeminal mesencephalic nucleus of rats. Neuroscience, 2010
- Nakahara H, Furuya S, Francis P.R., Kinoshita H. Psycho-physiological responses to expressive piano performance. International Journal of Psychophysiology, 2010
- Ogoh S, Nakahara H, Ainslie PN, Miyamoto T. The effect of oxygen on dynamic cerebral autoregulation: critical role of hypocapnia. J Appl Physiol, 2010
- Wakuda Y, Niwa A, Mikiya R, Tsujimaru Y, Kawahata H, Nakamura M, Moritani M. Central termination of the trigeminal ganglion primary afferent neurons innervating the masseter muscle in the trigeminal sensory nuclear complex of rats: Bullen of Morinomiya University of Medical Sciences, 2010
- 松熊 秀明, 中村 辰三. 前腕部への突起押圧刺激による近傍部へモ

- グロビン動態に及ぼす影響.全日本鍼灸学会雑誌, 2010
- 中村 辰三, 川村 茂, 北小路 博司, 川村 敦子, 松熊 秀明, 他. 近赤外線分光法による押圧突起付インナーのヘモグロビン動態評価. 全日本鍼灸学会雑誌, 2010

【2009】

- Fujiwara K, Tomita H, Maeda K, Kunita K. Effects of neck flexion on contingent negative variation and anticipatory postural control during arm movement while standing. J Electromyogr Kinesiol, 2009
- Fujiwara K, Tomita H, Kurokawa N, Asai H, Maeda K. Effects of stance width on postural movement pattern and anticipatory postural control associated with unilateral arm abduction. J Electromyogr Kinesiol, 2009
- Fujiwara K, Kiyota N, Maekawa M, Kunita K, Maeda K, et al. Saccades and prefrontal hemodynamics in basketball players. Int J Sports Med, 2009
- Nakahara H, Furuya S, Obata S, Masuko T, Kinoshita H. Emotion-related changes in heart rate and its variability during perception and performance of music. Annals of the New York Academy of Sciences, 2009

【2008】

- Furuya S, Aoki T, Nakahara H, Kinoshita H. Kinematics and muscular activity of upper extremity movements in piano keystroke by professional pianists. Proceedings of 10th International Conference of Music Perception and Cognition, 2008
- Yamashita H, Tsukayama H. Safety of acupuncture practice in Japan: patient reactions, therapist negliglence and error reduction strategies. Evidence-Based Complementary and Alternative Medicine, 2008
- Miyake T, Aoki M, Morishita R. Inhibition of anastomotic intimal hyperplasia using a chimeric decoy strategy against NFκappaB and E2F in a rabbit model. Cardiovasc Res, 2008

【2007】

- Miyake T, Aoki M, Masaki H, Kawasaki T, Ogihara T, et al. Rgression of abdominal aortic aneurysms by simultaneous inhibition of nuclear factor kappaB and ets in a rabbit model. Circulation Research, 2007
- Paik SK, Bae JY, Park SE, Moritani M, Shigenaga Y, et al. Developmental changes in distribution of gamma-aminobutyric acid- and glycine-immunoreactive boutons on rat trigeminal motoneurons. I. Jaw-closing motoneurons. J Comp Neurol, 2007
- Shigenaga Y, Bae YC, Moritani M, Yoshida A. Spatial distribution patterns of excitatory and inhibitory synapses in the dendritic tree differ between jaw-closing and -opening motoneurons. Arch Oral Biol, 2007
- Yamashita H, Masuyama S, Otsuki K, Tsukayama H. Safety of acupuncture for osteoarthritis of the knee - a review of randomised controlled trials, focusing on specific reactions to acupuncture. Acupuncture in Medicine, 2007
- Yamamoto M, Moritani M, Chang Z, Taki I, Shigenaga Y, et al. The somatotopic organization of trigeminal premotoneurons in the cat brainstem. Brain Res, 2007

□ 10周年記念事業

森ノ宮医療大学は2007年の開学以来、高度の専門職医療人を育成し、地域医療、社会に貢献する大学をめざして歩んできました。10年の節目を更なる発展の契機とするため、さまざまな記念事業を実施します。

■ 森ノ宮医療大学10周年記念式典

2016年11月26日、森ノ宮医療大学、イーストポート(東棟)にて創立10周年記念式典を挙げる。第1部は、10周年記念学術大会として、堺市立総合医療センター呼吸器内科の郷間巖部長による特別講演「多職種連携チームで支える高齢者医療」をテーマとしたシンポジウム。第2部のプログラムは、本学理事長のあいさつ、相互連携協定を結んでいる相愛大学の学生のみなさんによる管弦楽四重奏、淀川キリスト教病院グループ柏木哲夫理事長による記念講演、そして「もりもり元気体操」となっています。

■ 各棟・施設の愛称を公募

10周年の節目を迎えるにあたり、各棟(東棟・西棟・南棟)及び施設(図書館・体育館)の愛称を在学生、教職員から募り、決定しました。本学らしい、親しみやすい愛称となりました。

各棟

東棟／イーストポート(East Port) 西棟／ウエストポート(West Port)

キャンパスが「港(ポート)の近くにある」という立地の特徴と、「港は出発の拠点＝医療(者)への道の拠点」という意味が込められています。



南棟／キャナルポート(Canal Port)

東棟、西棟と連動する「ポート」という言葉に、みなさんに親しまれ、キャンパスに癒しを感じさせてくれる「キャナル(運河)」を冠しました。



図書館／メディカル・アイ(Medical Ei)

図書館は、ドイツ語で卵を意味する「Ei」と英語の「Eye」をかけ、「医療者の卵を育む学びの空間」という意味が込められた案を採用しました。



体育館／MTC(メディカル・トレーニング・センター)

体育館は、南港にあるATC、WTCを意識した愛称に。「医療の学びが活きる、トレーニングやスポーツの拠点」という意味を込めています。



■ もりもり元気体操

森ノ宮医療大学創立10周年記念事業の一つとして、荻原学長から、健康寿命を延ばし、QOLを保持した高齢期を送るため、高齢者の疾病において問題となる認知症、ロコモティブシンドローム等老年症候群の予防として継続でき、無理のない運動で構成した体操の創作についての発案がありました。これを受け、本学老田教授を中心として東洋医学、理学療法学、看護学の観点から、鍼灸学科、理学療法学科、看護学科合同のプロジェクトで15の運動から構成した「もりもり元気体操」と命名した体操を創作。高齢者を対象に、認知症、ロコモティブシンドローム、腰痛、肩こり予防を意識した体操ですが、若者から高齢者まで広く適用できます。

■ 新講堂「コスモホール」完成

イーストポート(東棟)1階の体育館兼講堂を改修し、400名を収容できる新講堂「コスモホール」が誕生しました。新講堂はイーストポート4階の大講義室と中継でつながることも可能であり、合わせると最大約550人が同時に様子を見ることができます。



■ 10周年記念サイト

創立10周年を記念し、特設サイトを制作しました。森ノ宮医療大学の歩みやこれからのビジョン、10周年記念事業などについて詳しく掲載しています。また、2016年に作成したプロモーションビデオも公開しています。



森ノ宮医療大学 校歌

みどりの風

作詞：山縣優子

作曲：後藤悦治郎(紙ふうせん)

1

学舎(まなびや)に光あふれて
大海(おおうみ)の風は清(さや)かに
志たかき我らの背(せな)を押す

*

掌(て)で耳で目で聴きとろう
人の心と身(からだ)の声を
健やかな世を慈(いつく)しみ
愛する心育(はぐく)もう

2

先人の道を究(きわ)めて
知を深め 術(わざ)を研こう
かがやける命 未来のために
*

掌(て)で耳で目で聴きとろう
人の心と身(からだ)の声を
健やかな世を慈(いつく)しみ
豊かな心育(はぐく)もう
きわめよう 我らの道を
みどりの風を身に受けて



想いのすべてを、医療の力に。



森ノ宮医療大学

保健医療学部

看護学科 | 理学療法学科 | 作業療法学科
臨床検査学科 | 鍼灸学科

大学院

保健医療学研究科 保健医療学専攻 修士課程

専攻科

助産学専攻科 [1年課程]

系列校：森ノ宮医療学園専門学校